績溪縣二十三編

上冊

へ13
3180
15

續膝栗毛十二編

全本二十冊

十返舍一九著

英盛堂梓

（全三冊）

目次

昭和十三年六月二五日 購求

續膝栗毛十二編序

十返舍

へ13
3180

庚申鴨巣

塚越の之図

續膝栗毛十二編　上冊

東都　十返舍一九著

東海小陸の中間なる。
およそ小國道の驛遷ふして。人煙つゞきて殷ぜ。驛舍の構ひ皆りつぱなるうち。高傍まで。諸方への立場茶屋。ならびくして。馬借停車。絡繹ありて。賑ふうち。おもしろき名物

年〻中絶の膝栗毛當年續屋つゞくまでも。
此道中續者の數回もはやくゆきたく。
まで。ぞうけんの教生等をさそひ。
發まで。小吉人うちつゞき。
毒毒の實をのがれ。
うかゝひよく。
出〻てやう。先當年も。
發中おのく。
筆をとゞめ。

跋元　英壺堂述

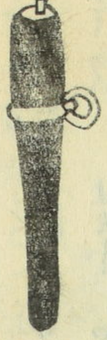
おゐ丸中小藪のる〳〵峯八人の乞ゝか〳〵上尾博労
新田の酒屋その名高く熊谷梅幸のそゞ物本摩の
茶漬。幸庄の鋪え丹そり
倚ことこの粧ゆこゝろるゝ御代のあうぐさゆ八徐の林
くゝきこ蔭るく。公浪のよまる諸もるゝ〳〵べうの強
く
家の沼沢命を清幸るる八。ころのまゝあ〳〵ふまるせて。
きや東教人のゆうこち。新町放とお立安のまかる
くぶむうとまぶて。幸庄の宿よさ〳〵かゝ〳〵べむう

ようまる。長持人足のうこよう猫ゞナア なるう人
声もくぐるる。ナアンアヘう猫と声もくの客がる。
ナアンアヘヨウ。ごめんくく。ごくく。
こま出。くく。まてこいく。ト そのあとよう。武家ごと
のおこをうとかへてさき
めんどうる。そこくそうぽくのんでいる
やせう トがうぎるの茶やくまるとちややの女 おをうござうまゝと
ちやとあろうんでろ。あろうれをとうる。そのむうよのをふ田
舎の大どんめをる。そこごろの男三人医者らゝきも交てござれも

さくら本
金丸

がらさんをかりにべんべんとおのきさるまのも。らさのぞうぢぐへりとおんへ。
まかけのおおきてむこと。伝の男ふりくせうかがらゆで洒さうるいつけ
のてうけそねる夜。女ひろぶさは「ろうへでみも。なるいおさうるが
さうるとのせてかちきう
まいりませぬトさらぶきその中ふ名と「イヤ是れ頑固く。
そして仕ろうずこの袋物の損傷。細徑の壊物。清
名
濯ゐるとしておそうく道中の茶やは殻おかるいとく
まとふ後世おそるべしどうへトいふそれや「匠「千代里
それ價のうろえとて。あこらも追剥のごとしさ。
今ひとり大尽というふ名のおとこ「大尽「いうさるそとつへあすうぎとらへども楚をう

まづご。それはそのさうるをおいてきて婦人の美形。
紅粉の粧ひ。やずお足下のようさへ妓ふその才ぞ。
「匠「むかしも隼頭太隅を取りてある瑶婦の相とあるが
とのりい「かちろんく。羅ぐへくる怪羅とある何で細腰
ふつらんう「大尽「イヤそれはだろうへ細腰でるうろ。所謂よち
何るな孤がきいてあきれるぶんだへ。ハヽヽトはい内とるやさお銭て小八の
それそと「幇間「アノ唐人の麝香をきやうまとるんどうおの手合の
りふとさア。さ何ぞうコとう「小八「そりやさ。世界中やアいろ

いろの化物もあるものぢ（トいひながら内医者はつゝと医
くるとみえもせず（イヤ呂下
ぐるぐるぐるりで立うけてお元。今おくうう（小八まつ二ツ目
ちゝのかゝ。むすめざゝきよどざろうこのぢ孫（次
ひりちんさいのぞうきが（ナント（ちゝ
お生なさろうて。ひろあぐうませぬう。おう（次
のめん箕のむしぢ。コリヤ（ちゝ三ちう。三の倉でうりて
まう。杜丹泊をよこせく（トいふ。こせこれまぬる他の男。
まひづをかちまをつれてく

かのごとくゆそ。こしおさまうお（大小
こゝらくるる。まひづ出あう

るぢゝこと見えく（トいふ。まうこもちんてう
がぢゝ。おまえ（次
画家でん。文晁子が。うつをう（次
てうしるど。出者都く（次イヤ見ちうんぢう
せんが。あんてゝよう。二あぢうのさんぎの
よつさ（イヤ三弦のまでん。画の（大小まこ画と
人がぐでもあぢん。故竜（次
湿手のおろい出ぢゝ。ろちも去手れとみて。ひさし

く維新(えぎ)の事(こと)ども。ゆるく芝湯(しばゆ)にでもつかりて。
あいさつもする女(おんな)ども(医)おうく去(さ)ってゆく。
まもなく。粗(あら)の物(もの)も。皆(みな)〻能(よく)熟(にこな)れる頃(ころ)つて。
いざ〻くべつ
ゆるく夫婦(ふうふ)ども。ゆるく寝(ね)ころび。
うくのてをくる。おまへ(代)ごとの精霊(しやうりやう)。
そもじも去(さ)りませぬが。三絃(さみせん)も。
なかの
「まことに大都会(だいとくわい)。このまへ
そきく
陋巷(ろうかう)の注文(ちうもん)で。三絃茶碗(さみせんぢやわん)をそのくらいと宵(よひ)。

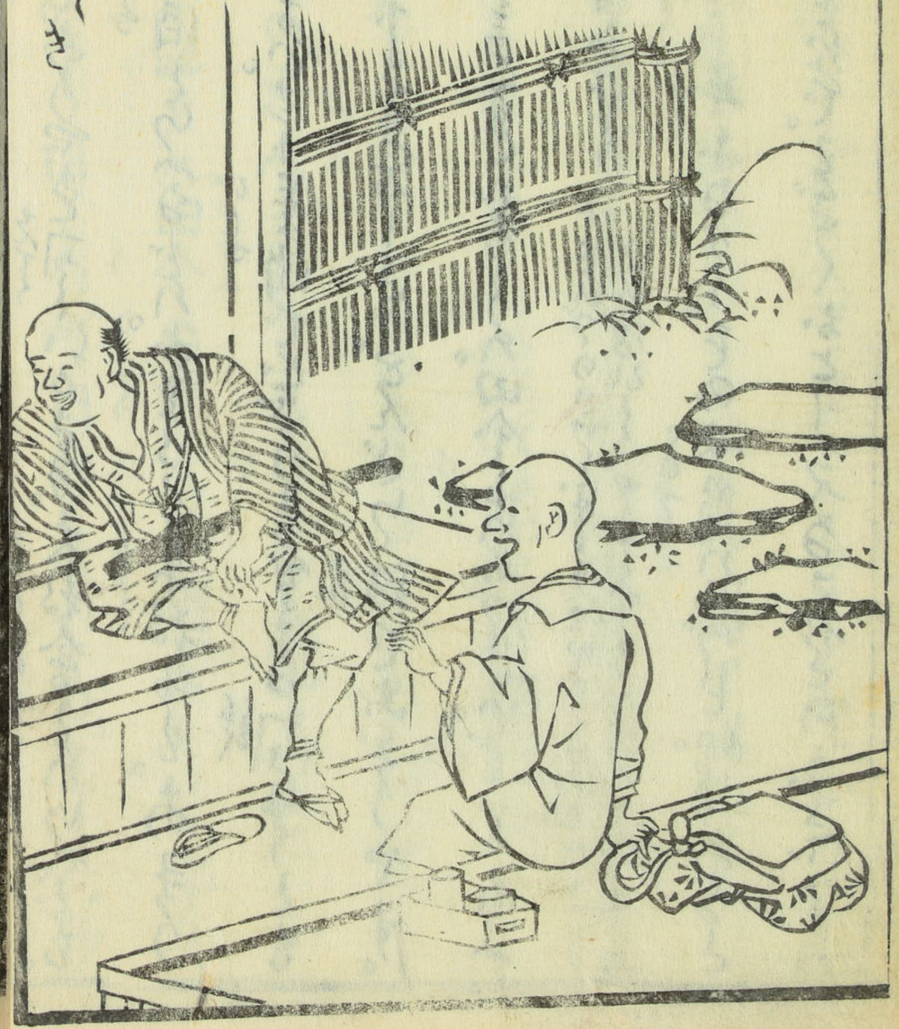
いつくしく(代)ゆるく(代)ゆるく(代)
「ほんに。あゝの吉原(よしはら)へ。
江戸(えど)の唐人(とうじん)。
百廿本(ひやくにじつぽん)でひとあきまへ(代)
下直(げぢき)でござりまする(代)
ござりやす。
ちやうんの(代)
「イエやさうせと。
ちやうんの(代)
つけ(代)ふしぎ。

又ちやア。沼沢さん。おめえ人が悪学(あくまな)ことを云。おらうが
笑(わら)て事(こと)。をうは生(いき)のいやんどやア移人(うつりにん)。うそ
云(いう)でおのことをうふうーて。行(あるく)がでうめい
でまことやをつりのごトころでもつめことをとらへ医
ま人(めくら)まれまし。あまれまし。コリヤおもしろい。
やさん。ひろい〳〵ひとう町内のものでも。まつ〳〵第一
のまことくの。大人(だいじん)ちをきつい。名どうがまる
りのう一ナアニ江戸ハ田舎(いなか)のやうこりちやアおぢう
やさん。ひろい〳〵ひとう町内のものでも。まつ〳〵第一

りのいいうもあるやをいうまる。大勢(おほぜい)こういう人ども。
とのまこ。牡丹酒(ぼたんしゅ)とうるどりおそうさん。おそうく来(き)るも。おまり
澤山(たくさん)来(き)るまい。ナント美酒(びしゅ)でござうまをうる一さやうとも
さ気(き)かどう〳〵下さる事(こと)中〳〵ござ。そんざら〳〵油(あぶら)でおござうやす。
のよまこ八一まこととをだろうへ。田舎(いなか)出(で)めづらしい。ドレくらふ
ひとつ。いつできやをう。トまづ(まず)のさけとまこうでかるこれ。おのそま
つまがろうをモシ(もし)。辛(から)ふござるが。その次(つぎ)へめづらしい。コリヤあるこ
ござのあるものをだで。ござくおこーらへるさあとのうそでし

砌森

ゆく
道も
遠去
あるも
きりと
木の
こそこの
きたの
話を
しれしき



生碑の
洞もる
名
もるゝ
形る
互をも
のんて
この春
詠人
東窓舎
一河

お互ひさまざまのうゐ「イヽえ」ちまたの
ごんねん　しゃうえう　じゃうごおり
先づま上京いそ〳〵と時ぶ四条通の道を足せよござりま
きそく
すことでござりても実妙なりのごとをひづよいそ〳〵。よか
ろ〳〵とぞんじて。おうもいこれて下直よおめて。ねぎ早く〳〵。
かやうにこ〳〵らくさせまし〳〵ぐ。挨へさして。うちあるなまを
「ぶそく」
う〳〵。ろうく「例仕でござりまし〳〵こ
「ちえん」
ろのう。ドレくちよくおうせうさまと「ト」まゆうろうて「ゐろうこと
ぜんじ
とやでござりまし〳〵こことでござりまを「イヤ此ぎ和のうゐい

ぶそく
ぶそくなろちや。ヨーや志和ぎやが。上ぐことでおりてめろさ
まてこのこれちやさうい。そまでとうろことらよけれる。
コリヤ　そんぐ貫角とらよりのぶやが。ぎんぐ
ぞんぐませぬ「コリヤ」禁裏行幸の時う。あるひれ大堂舎ろど
の岩。堂上ぐこのおりてせろさろうのぐやろの「ゐ」ヤそう
ぶぎやう
吹角ホーてう〳〵「ろんのの」。コリヤ堂上ぐこのお役ちやろうの
ぶぎやう
おやろの。ゐ戸でも上ぐごゆ。お用ひろさとゆろちや
が。上ぐことちがみて。ろどでれ青竹と。火吹弁わどろきりて。

かけるゞ〳〵ふるさるとらぶとそで。やそう亜剣とそうまんそうそで
どざうまもと言いる「ヤァ〳〵そんそうま。コリヤア云弟流の小役
橋ホーとりの久。コリヤ大変な里ぐみぐ。なのかく京都で
そもめまもとそれ。こまた仏用ひとりのびおろうとう。けけ
うまいつても。及々金もかホーとうのう。志ましませめとや
まゝこが。りことられるいこそ及ほまけバ。むがろくるりさ
うこも解せてく「引いれまをきけバ。むがろくるりさ
「コリヤア」こんどま食おやァ移人々。そんる少役ごん仏を入て。

なぜおらゝようのませとのぐ。まむがむろくまるりるしい
めこあゝ志ァがりと「志ろうるいとるゝぜいぐるいなあん
なそうの「そゝておらゝと。及どろうまやァあるめゝのうんのゝく。
やまゝくゝやァがうこ「イヤお主人ぜうぶやァるい。そゝごりそのの
さけをのんざおのぐろう。了省ゝくるさい。コリヤ酒をふるまろこと
うんよ。あやまるもつまゝるいぐろうるいことをしゝこと。こまこらふ
もこの市繁がらんぞとも及いそぐ。「イヤゝゝコリヤ主毒白てらふと
のんぐ沼とそれそぐ。ケイゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

次第の[illegible]も甘ひもくさも每の

客ども酒ども肴ども小使

ふるうち。殺そこらもおうらしく。歩ろひつくづく

白くよ。もや山家をするまで。本犀とつよ遠切まいる。

そこか小川屋とて。茶漬の名物おまび

谷水白よ茶の花番木鶏人の

うらまでよる茶漬二皆この郎

そまよう圃勢村。山西名物の古姉と安べ

清雪ときそ〳〵むらしのものや

今へおうぎと谷のそ新

かくて深谷の碑をあをぎつゝ

そもて。あるきるぐ〳〵清雪て。

道中へ。汚でるれば追風くまる。とんるよあるきなぐ〳〵のさろ

りうもおうい ぎゃァるいかゝソレ十さ湊さん。さ〳〵まをヲット
おそふを湊さん。おさんまをそうろゝィヤいさぎき山のきる鳶ヲコリヤア
おまんぐらへゝおこのゝ〳〵こでござうまをる トらひてアれびゝ
うけてかるとひとうのおことぶヲれぎゝのつゞがらのところろ小八
とくゝときけをつぶヲれざゝとヲんせそゞまひづゝふこゝらくまる多ヲ ィヤとヲとヘ
おりろのさひづゝの一ひとゝあげませうヲ小八ィヤその泊央
とうこゝめこゆゃァのまをやせぬこそよ摩ふるがゝ。その
まひづ
吸谷間へおりのぎそ死で。ヲぎこゝらくるさろ
とのうゝでしの吉ぎゞゞヲんせるどで。お貫るさろこのでお

ざうまをう一ハイこをそ幸庄の市のとそ。がゝくこそ仕ホ
あうこのをかいまゝこヲそをるゝ。おまんぐこそ市まる和う
まゝ移人が。ソリャ平谷間とうゝ小て。すこそる家元の小役とご
ホゝこうのさ一ヲひゆうもるいことを。コリヤ出家も志を
てある。服指とヲせて。吸骨よ
中まるとそ死のこめ。ヲぎくあうくて。こゝらくこねゝる志
をてめまを小八さそそよう称。ヲろちのまる。小役こごを報
ざゝホ。てゝうくこのうこおりひゆゝこ一ゝるんのおとぎ。

五重の塔や

手習子雀

伐木亭一車

みちあるくやみをしまふ

墨舎一得

せうぶんごぐ。ぞふくてまた
このくぐりきをとうぶ。これをきぐもちがう
ひき。そでひきさろくとまーだやまをかき
まどぐて。多ぐの「ゼントこふ。俳
書くまいろろ「ソレくひさくそだと気
とうぐ。ろぐ列ていうふうちぐ司その梅なふ。ァて
移人。こーうふ梅本とうらふうち
ぐ。布施田ぐる。こまでも俳列のそだやが
こまでぐく「トおろそうの「モこぶりをおつくしてこ
ぜんこのくやを「ハィくりこまうまーこと「トさろそくこぶん
ろてきまると

ぢのあんぐも。カふるーぐ「俳一首やこぐろるめ人
多ぐ
熊谷の宿よ名ぐ
よくもうちうりあつりの蕎麦
とのふ死十三回のおけまうく。ひろ
ろーも。ろうづ丸まてもうのおこあるのもまろ「そだと一ぜん
ろまれまーこのまろ「お丸ゆろ
をらへ。そ列が多い。こまうこと三両で。ろぐまの
久ろもァるーう移へ。ゆ人ゆやァさりき。ぐる多とふへまこ

きやア親へか　トいふをさひとりまぞをさうくとゑをうる道げふへ　おらるもくひさへる

[illegible]コリヤ子どもハ銭が親へかとのあふいも邪見する中いぐ。

みせておくぞと一ぜんくふして宿どふらふへ　[illegible]おめへとらう

めへ喰どふを出さふれふる。こんなことさちがせふでいせしまで

いつそ来中ゑへ　[illegible]それぞとうて可愛さふよ。コリヤいぞらおれ

がくふしてやらふる。いつでもおもいきれ。ゑく　ト[illegible]

[illegible]このそぞうさもきへ　[illegible]ぶんなさふ。みなぐろうどぞうまだ銭

本賃宿で人のおめしのおまへさのとふらと二せんかいいて。

いいくまんまどうぞひもじくて[illegible]ありませんトぐつくしく

[illegible]おもいきぞらんとゑく　ト[illegible]めへへ仕合ぐ

かゝ[illegible]いりサ　いゝか[illegible]あつがらうどぞうまりこト

[illegible]そぐよくさふ。おゑげんきよく　[illegible]もと親さア八里へ十五へどのり

とく[illegible]子どもいふよかの代。現金するかのぞもちがよく

あるくぎゑまおのことそうござゑ　ト[illegible]とふひておるおとや

旦那へ人があいのぞ。あんなとをゆへゑるあへつうが経玄。

ふつかず旦那が。ふのうち今なうる[illegible]と見るかのぐらう。親気

めつがふそうでひとうほをもてあそんでそとをみつがあつちの
うまどとでもろくとも年うさのやうにかんがらつぼをそてろうぽ
とかうえをみごと人はあれせるまうけてるこごろう
ざんるがことをめろけ。道中まやア。いくらもあるとござふ。
旦那ぐさん。茶るまをるい元とれそそみうえ
らるくしい。きうまごもがそんる日和恵比寿おめえ
その筆ごろう。ろぷのうちのごう。葉さとの
あうろとをがうけて。ぶちのめしてやろうよおめえ。

さえへこごうご。ここちがちるのうう移人のごよ。サア
出うけやせう　トこのまとくちものでうろうぶやそのうちざとるぐがて
日るちつごるまく日ざとよ。とまとうう
さえの宿まぢえ。四里八町くらかかごう。ともいうまえ
セントかみ。るろうぶやア私くしのうさるそとく。るうと
きめやう　トいつてるとごとまとうぐモこ
のこやとくやどやのこと五えおもやうどうまこ。志ぢしをる
ろとくうえ。この外辺合まをうう。中宿でるよくえ。
お泊るうませこでもうう。ユリヤく

おしとく。お茶をくんでこい ト 帳場からめしたきをよんでいれてたのむ あいとあいさつしておがくしやうもなし せがれ

〽サア どちらへおいでなさりませ。此お客さまがおびようぶ お茶

までござりますまいぞ。こゝで一ぷくなさるならまうてゆきなされませ ト

客とのりこのおくざしきへつれていく。とかくこのざしきはおきやくのざしきとなりのあけざしきにてごかのきかのやいろくかいてあるとびらのあかりもしらずさしきなり。

ふすまそとはかけかんばんのちやや みせのもくろみ へ ヤア おめへの やまとくいふびそう。とのやどや おまへあがりなされ

けさ いんきやう 合羽屋でおめにかかつたは此生まれつき 一ぶ二ツの御蔵前

せんせい 此先生とちかづき。コリヤ あいさつ。此縁のよいことでもや 〽お茶

人さまでござりますとう。ソリヤ ごくどあいさつ。ちとあがりやさそ

なさりまし。さぞくたびれお湯へおいでなさりませ ト

女 くにもくだびれましたゆへ はやくお茶くだされ あんいろどりの早女ちやとこゝでなんよのせかいてきたり 〽女 おちやあがり

ませ 〽ヤ おめへのお茶はうまいそうな。コレのちからしが

あるおめへそうとおいらの所へきて見なさればよく

〽女 ヲホゝ まいりてもよふアざんじますまい 〽ソリヤ あがりなされ

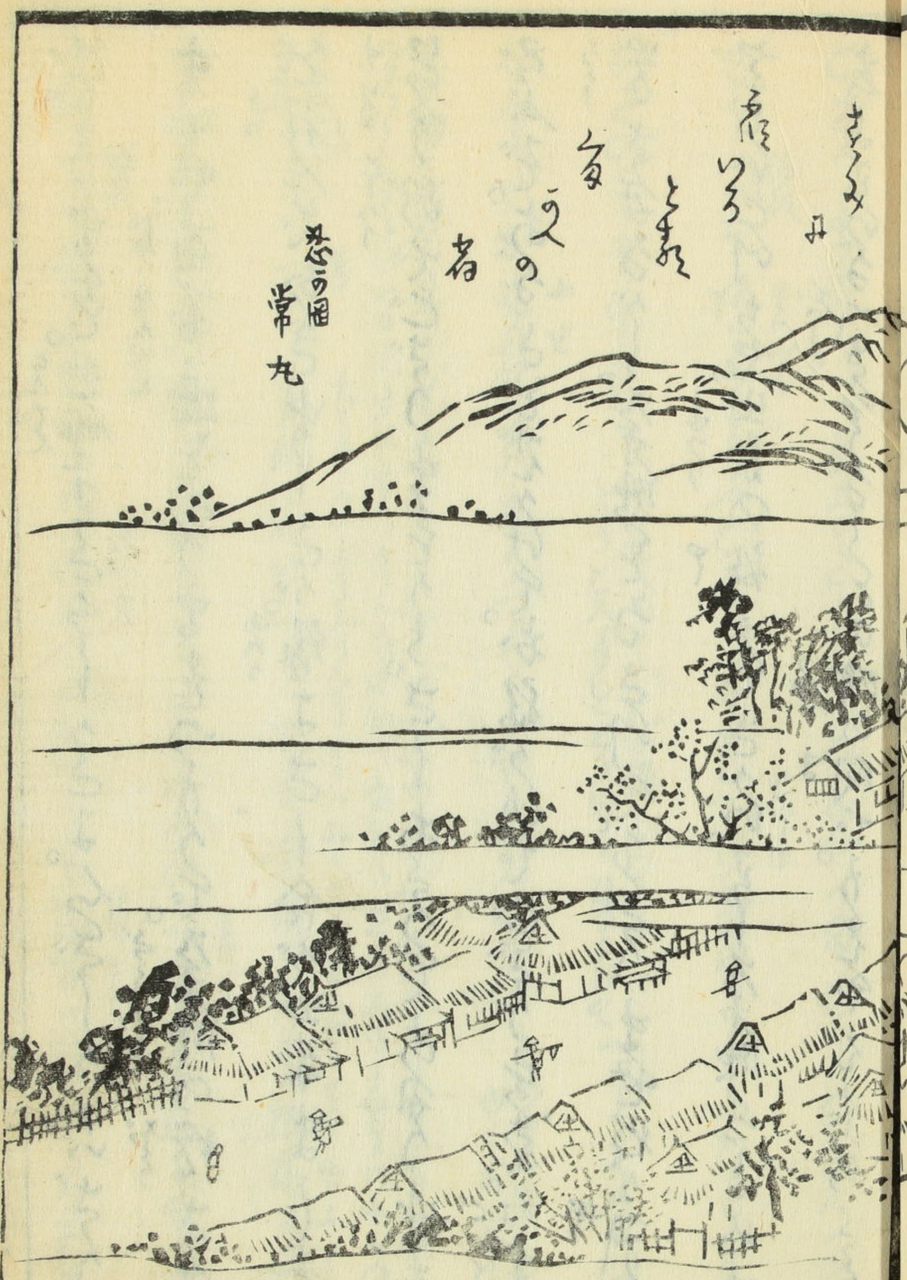
コレ このおとこぶんまかりでわんざりなまてくれる事へ ト

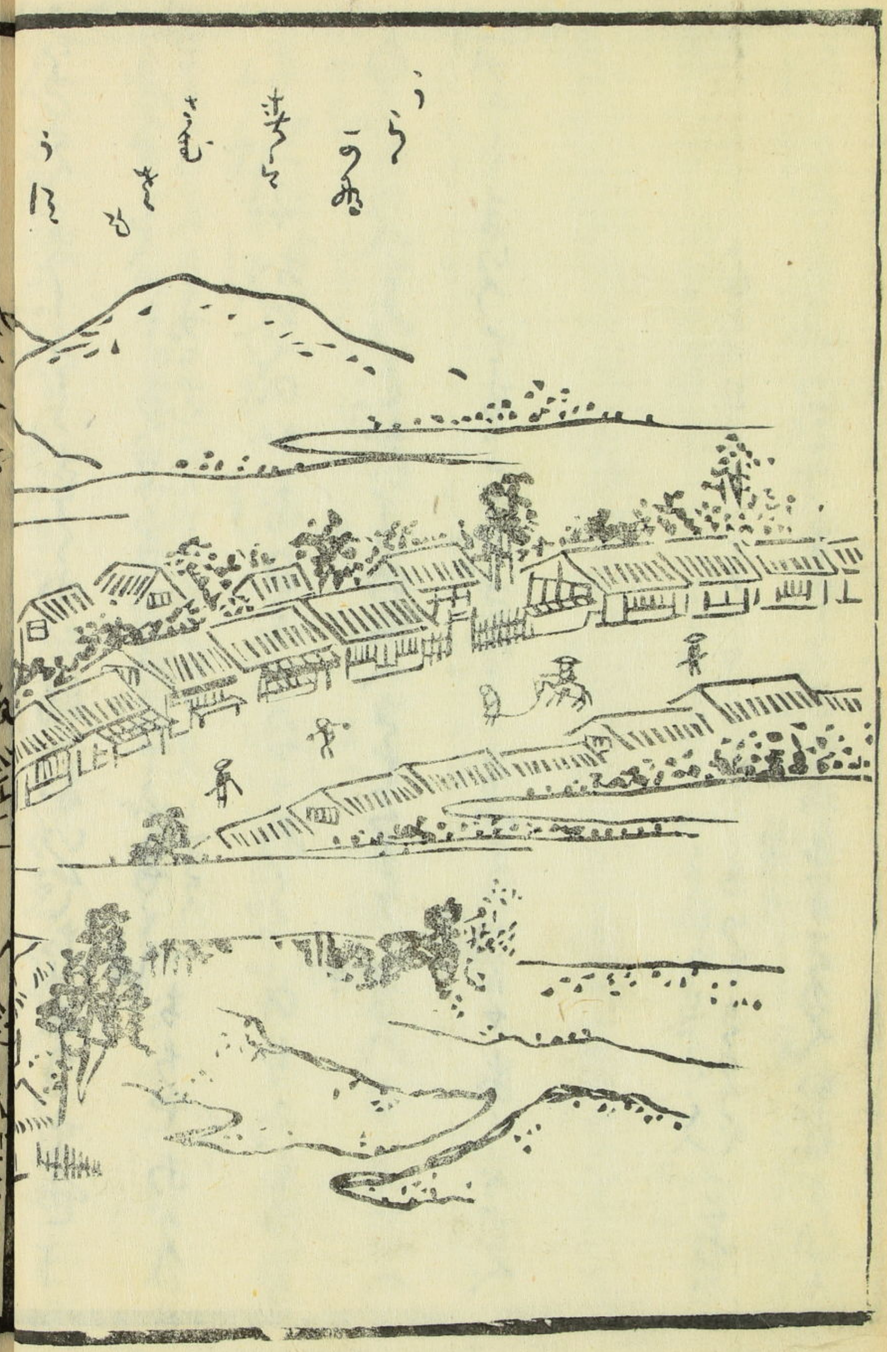
きつとちよいとくらければ みんなくるくろしてゆく。やがてお茶あがるぜんくへ 〽ゐやお客様

ぜんなりで。ふひおせいるところへやどのていしゆうでまいりて

客つけ

おつかれさまでござりませう。さて此お客さま。お膳がひが





どざうまをと。ゑんだん
まつて百萬遍をくりまをつ
と称んであきまつこが縁よ
ばうでどざうまをう〳〵。さ
ぞよであることをうけて。お弥
うう
勇さうるがく〳〵。そ寺院をるさ
やまをいこれちや。出家の役じやさ
つぎま
きよとのるまつこと。この次の間でうちやをじめさう

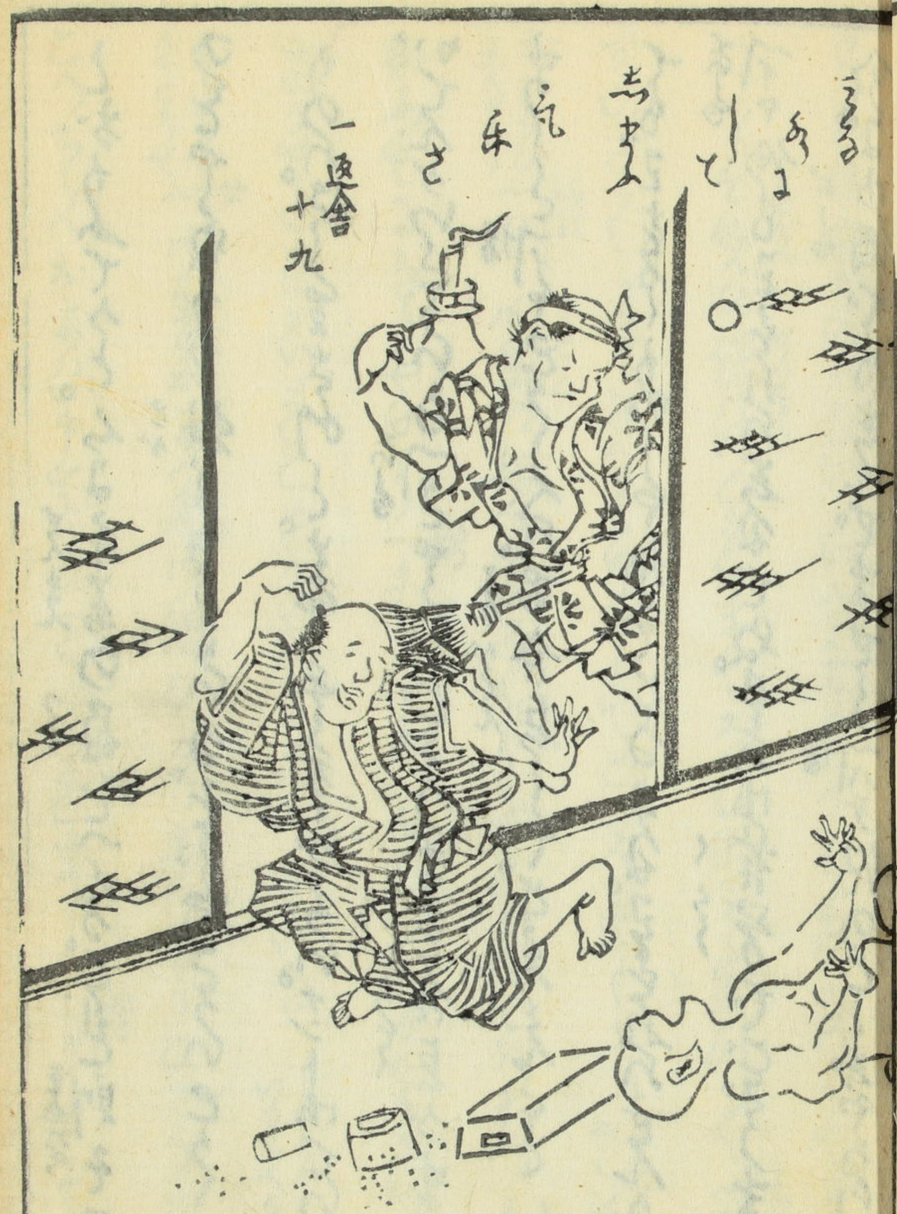
どざうまをと。コリヤあるまこがこゆ
せう 張 十二年 ばかよふにどざうやを
あこのくやまをと トうそやく。こび
あること。お布施出ありつくじや
ありこれ。種ところびるがく。つぎのまをと口れば。ちがい
うちの名 自己チヤン 張 エヘン 光明遍照十方世界 念佛衆生 摂取不捨
るもあこがつく。るもあこがつ
ぶり 張 イヤとうてるも返をぶ。おうつるも百万返をうそよ

次
門とく物もあぐさそぐちとくもあ
あるゞくつぎのま(修)
やきそてそう　とむ(修)るむあそぐアんぐろ(修)るもあめぐアん
ぶろ(修)るるぐアく(修)チャンチきく(修)るぐアく。額衣玉切
ぐびゃ〜せろきぐろかぐのんろ(修)チャン(修)るむあそ
独年筆生一切道餐書粧乳独生安糸(修)チャン(修)るむあそ
ぐぶく。今日ぬぎ〜の猪灵仏菓茶粧のある百むあそぐ
ぶろく。るァむあそぐぶ。ャレくめぐろぐる。ヨャいづまも
ぬぎ　ぬも　ぶろ
体をぎく(修)出好さる。体くろ
ちろのさ〜きんぐどぐろて。おやをそ
さ〜きん(修)ぐろく(修)まぐぶ。二百ぬくろ(修)るんのいる
よふ二百ろをおろぞい。大ろこ百ところぐやあろぐろる(修)ャ
そをでも。ぶろるのぐろ〜ぶろこ(修)ろぐぶ出
ためぐやぐ。ヨ込でヨをこんを考
らをちゃアつま〜移人の(修)かんぐんのろちゃ。ろをめんやろめ
いてきそコレく体真を重く(修)河(修)くおよぐるろまろ
(修)ント房ま。教化いそぐやるの(修)ろうぐろぐぐ
をまをぞぞをぐをとぐで。おぶひまをとコリヤあるく

ぐらへ。あやうまつ〳〵ろくろくまで。十二三ごろちらも雅文いと
やせう〳〵。出仕さきの作法がまだまるでとゝく
まつ〳〵。トよびろもちもこれ〳〵ぎくしやくしきの
ぎんだあどのゝ。ふ〳〵や耳がきこえんこと。
出るさい。コリヤ牧田のおんだあどのも。そろ〳〵つめまし
さい。コレ〳〵子どもやうるさいぞ。あつちへけちやア。
おろぐ〳〵。ヱヘン〳〵。さて教化とや
て。格ぶのとともどざうぬがさく人ぶのさうろいことと
ゝさび。天光名利。凡のおのこゝろ〳〵びらきを悉く
ろぐろ十年。蝶蛄の一時爭いろの笈中とやて。屁
をひつて。屁とさびめうまつろいかのでぐ。さてまつ供佛施僧。捨身をもうさ
さべ〳〵。雲ともうろと放。名聞くのとゝかとゝけの
経せつまとゝろの。佛まつ仏ごをそろへ。施僧とやて。
ほんぶろどろ死ぬ信ふへ。ありげるくかのとゝかぐこせろよ
とゝ。とゝへぐを司百文やろとゝ。ありよろべ二百文まで三百

るる。三百日百くおりあくようにつるこけ余まふ〳〵て
ゆるがよへと。あとけもおくせ〳〵そこで。地獄のさこも
う林火牙とやて。ゆうさくさこを見び。極乐往生へうこびるへ。
つぎよ。枠牙をかくぞうよせよこと。この身を須川へもかて
いて。ごんぶうとこ書こでのるへ。法華といふやをと
おや。ハテ後世のそうる〳〵。牙ふも今もあ〳〵まど。銭金もうび
うめてかぐこせとやをとこで。どざろ。まこ西こそう。百
とうくとこ古歌よへくく。坂へてるく後悔へうう。相め土

やうとおりあこ而。あとおりいくらふ気がついてやふ公が
できろ。そこが晴天よ村雲のうちよ。ふ百
とうでござる不時くのとおをやまぞ。それ
やめくやをとこで。只今もふをのかのかをく
と。そをやてやをこと。さの葉ふりの。気よなりて
又百さをも。もやや南方通ひ。去まふこちやさうい赤絶
をくまそうをそやまのどや。コリヤ又をとうで。ふい



しおりてうと。今日(きょう)は本当(ほんとう)のお客(きゃく)をつくると見(み)則(のり)そのもの
のをやめうへ料(こが)るうちやさうにこうやる
かのでさうまちまして。まあ
がてんがらうる「さやうだ(そうだ)」
まへ「イヤどうく人(にん)お合点(がてん)でどうぞ
てもどうぞかのごやねぞこととるさるなことをあのでんらいる
ちの「イヤ御(ご)もまちのまるせぬ。
今日(こんにち)は市酒(ビール)でもちんぜまするかと
サアくそれの従(ついで)にまでだ。るむおこぶくまへ
まうごくヤレくみごうにとこうにとう
大事(だいじ)に従(つれ)てまへ「ト云(いう)ながらそとうがれんのとうちやらいる。
おうせまうまへ「ありやせうふらいよ。ん
きこうせうさうに。をとさうかのうちあうそのヨトあれをいるうへ
きこうせうさうに。をとさうかのうちあうそのヨトあれをいるうへ
ろうちやく。おとびやてとうとうをまへ「ヨイくそをろ

話もあるさけものむやぶんのふ
そとのうらいはへのみどよきやうにおもふ
きやうてそうらいあやうるやうにこそふ
うらの稼ことに。とうらい。ドしく稼てそるやろう。イヤ
まてく。その内の影造めが。とのつぢのまゐ稼てある
のそ。ヌそぢけておらこ。きやつむろうろこ。屠つき
ぢやさうらいさろきよちよいと。とるづけておらこよ。あとへ
うて稼てやろうらい。トレくヤア。ろうらいとこるト。さけきぢんみろうれ
てひよろうくく。

つぎのまへ出てける。ヲヲ〳〵ヲヲまつぢ。ヲヲ
ヲヲとゝさまがきてけがせうがどうのうちをおもく。
ひとうちいしやぐしやぐふまどつせて。やうんとおりひそうく
そうの神ぐどころ。よぎともふとんも。ぎゅうぎうのそこの
中。まんぢうの火をおきけしてそのまへよぎひきふろう。
ヲヲとゝさまがきてけがつぎのまへ。ヲヲぢいどこ。アレサ
よさうしやい。ヲヲ〳〵でもるの。あゝやアどく〳〵トさまるてゝ
ヲヲとゝさまとうつぢのくきとんで。ヲヲ
ヲヲをとらうぢや。ヲヲ〳〵ヲヲけこらるやうぢや。ヲヲ〳〵ヲヲ
ヲヲまい。アレくうるさいくぢ。トありみさるつれこぢ。
おとゝて。ヲヲうよかゝぢとあげてとるく。
とゝくくとゝのざきくちひもどうびとうがうゝ。ぢとうふをきけが
ヲヲけこらるやうぢや。ヲヲ〳〵ヲヲまゝのうへ。

春ぢ男ぢ
あんるきこ流生ゝ変〳〵うこ〳〵ぎや。ヲヲまこくがない。
さゝぐ着てとるそ。ヲヲこれよごこぢや。コリやヲヲの神どう
ぐるらい。ヲヲこゝとのあうぢやあうことがヲヲそるく〳〵トヲヲ
ヲヲとさうコリやぢゝでもヲヲこゝとるらいよう。ハテめんやるるあ。
ごこゝや。テンツルテンツルテントひうとぢゑよ。ヲヲまれるぐうをひまるふ。
フツフくフツフくコリやヲヲまこぢめるく。ツヤ神ぢのう。
ヲヲ神ぐところがヲヲまんでるゝんさうい。おまへの
るくるこゝまでそうぐんせ。とうく〳〵トヲヲまゝのうへ
そうくるんとをれが

浜次「ヱヽこんごとゝとうろせへがうさるなごト ありのさまつきこゑべをとぞしろくぶうくう
しりゆうとつき 儀「ヱヽそんなこつとうちやのおうとのなく人をみろト
ておきあがり
きと八のよぎの中へすひとめがきと八はよく弥次ろうしゆへられまでのしれ
しらずでも今めのさめしとてみれバくらさもくらしどれがどれの内やら
せしめのぎをろくありひてとびそうのまとさぐてめりくひきよせながら
べる人弥次ろうつけべかかめもよしぬひげむしやくしやとさるはぎもとうぜ
そのまゝ 儀「いなくしい。コリヤアごういめごト とりはなくしておりのさるをおそうあつぞとよ
あうごだとがんかそ 儀「あうとくゝくゝ。コリヤむごろとくきんしさ。
あるながみれとこいの。おらさく ト北八はまわりしてまくつくを。つまごむせびむしやぶり
つまご弥次あひく喜多八これをみてその方のどうしもきらけ。何ごとやうんと。
あくつをおりして来て見れば儀もきこへる。喜多だんひくうあてこれ

くくあひての大さわぎに弥二ろうもおびおきて。ゆくくよしれを
こうとめくしがうびそう今はさけの事ひもさめて。めんぼくなく
あやまりいりて。まそれ大ころひとよりやろさわげどもとびそうへ。
あるなをしてらふうちて。そちまゝきるもおうし なれども
弥次喜多にあるなかへてとび儀の
これこんごめよあいさしとして
かく寺皿のぶつて。三人ともうちやしらるが。旅づくきの
うちまちに一睡の夢はさめて鶏のこゑもねぶるも不
おもしてあれ。雑疑馬のいなくとおしして明ぐうきの鳴
こゑるふ鐘のねのも。おき出るやうしとなれば。三人

そも同さめて。(そも　さめ)傍が咄(かたはら　はなし)の系(しまり)をかくり出(いだ)して歩(あゆ)
むひつ。そこくおまき(しく)交(まじ)その(ぺ)この宿(やど)とを出(いだ)る

續膝栗毛十二編上冊終

續膝栗毛十二編 中冊

いぎうこと故死かの。出る新うそりふ無名の弾とうち出もつ。文句射おらる。此所へ久下の次弟恵光が。吾程の地なうこそで。あるか旧者きろ〳〵結構。あくよう とるうとうけて〳〵いろ〳〵あるふらとらの。もうん せいのく〳〵ゆみ屋の坊さ引ろう。〳〵おめ人さ久人うとある ひやと〳〵お出いぐことのう。さる人出まうこと又まで。あと ま買うのこてあうてお引うとこさう。あうつとこおり

扇

て。そこをあることが。娘(ぎっこ)を主とうのへ。おるごのまうるい
うじてあるうんじゃさうい。あいてあるもおるごとで。
ごうもぶっくとをーるまうんぎゃかうおん
ぺろちおごそ。ごこぶろうけろ。ろつこと吸(ぜん)ぶ。ふんごー
とをとをとて。そをとうー娘(ぎっこ)。ふつでけで暮(め)やをご。
なるやど。ふうよいそをもあう。まことそぐ。ぎゃま
まるみて。ふうゆろひそをも。あるゆへとまうやを。
後(ぺろ)そのとと。ふうおそて。ぎゃんべ。せへがおうて

うよ(字)ゃまうゆー。ふうおうーとごぶ。あいこ
まう
ろいろ。そーのあること寺でお経(まっ)がそぶまるとこめろつと
まごん
ろうをんとおりて。お役まるとまくみてえこと
まべ。ろいさういコリャふーぎろ
まで。ぶっこぶみてあることうのぎそる。あーそとうくお
そーゃせんうこ。あもちとゃ
ぎゃさういへまふうー。今
ふうのとと。我慢(まんがち)のお婚(とぶ)めぶうみてあいてぶ。

とうとでやまうこゞ。今ちうこ
うらとでやゞ。うぜとあてこあうと
俗
ヘイヤあうるととうとうさる。ふんどゝやゞまいが。
うとうちの勝こま。まこうととつうこ
とろ
うみも狂言の狐人のさ俗ヘイヤ狂言ある
のそのふんぞ〳〵。うごでう。
そをもごこで出てまゝ。
をおめ人はされるおゞ人俗ヘイヤ〳〵ぎんこせや

うんうら。大こおまくそのみんどゝ俗ぼうさん
まこのゝやあうぞ。やぞうとさんをの
うとこゝをとうゞやこうとさんをの
俗ぼうさんをもうゞとのつうぞん
ちうう狐人。俗ぼうとゝ。るんのとうゞ人俗のかの
をまくうとうちやうう。ねをぬうゝやア
ゞう。やぞうちうこととうぞこやアゞう。
よとうはうとかぶうくぞ。ぶうう。
てアうんのこと。あをみやアとうう狐人ゞ。まめ人うのまみ

でかして。ふんどしをしてゐる きつうおかしな。ふんどし
かいてじや。ござとのかはうつむつさらしちりめんのふんどし。かいて
おるかのと。なんぞことがあるいもらうる ヤアむつさらしちりめん
のふんどしをしてゐるか。ドレドレ見せやしやれ ナニちつとも見て
あきれ婦人との坊主めへ。いろいろのことをぬかしやアがる。おかて
まあるつてゐる僧が婦人。サア法印さん。出かけやせう イヤイヤ
ゆうべまでは。そればかりも。いうんきざるわ。そのふんどしあいて
いうんせく おめへのふんどしを此男がしてゐるのか。おめへ

もらつてゐるなるさ。きつきういなるさつとじやア婦人久
きれがいなる。それやゆうべのやどでちりめんのきぢきぢし
なるて。それとりいつぺんさつゐても。まきんかんじやさうい。
おつうかうして。そうして。まうさが。今とこでみせやとのやうづ
ふんどしふして出やさうなる。ほうる出して見せんせ。むつ
さらしちりめんのふんどしをめづらしいおやろいなる。坊主
のおうぜへ。僧正様ふなるつみやむつさらしきるとなるかん
まいなる。それよ御待なる。五蔵六腑のむかいやうが。むつさらしの

かるこのきの
年囲
さしてうつる
舟へ
よるみそ
逢ハぬ
夏書へ名

宝舟庵
一笠

正直の
杖を
ちからよ
ゆよこそ

欲ふ
用のなき
人ハ
おさなれ
ま

十返舎

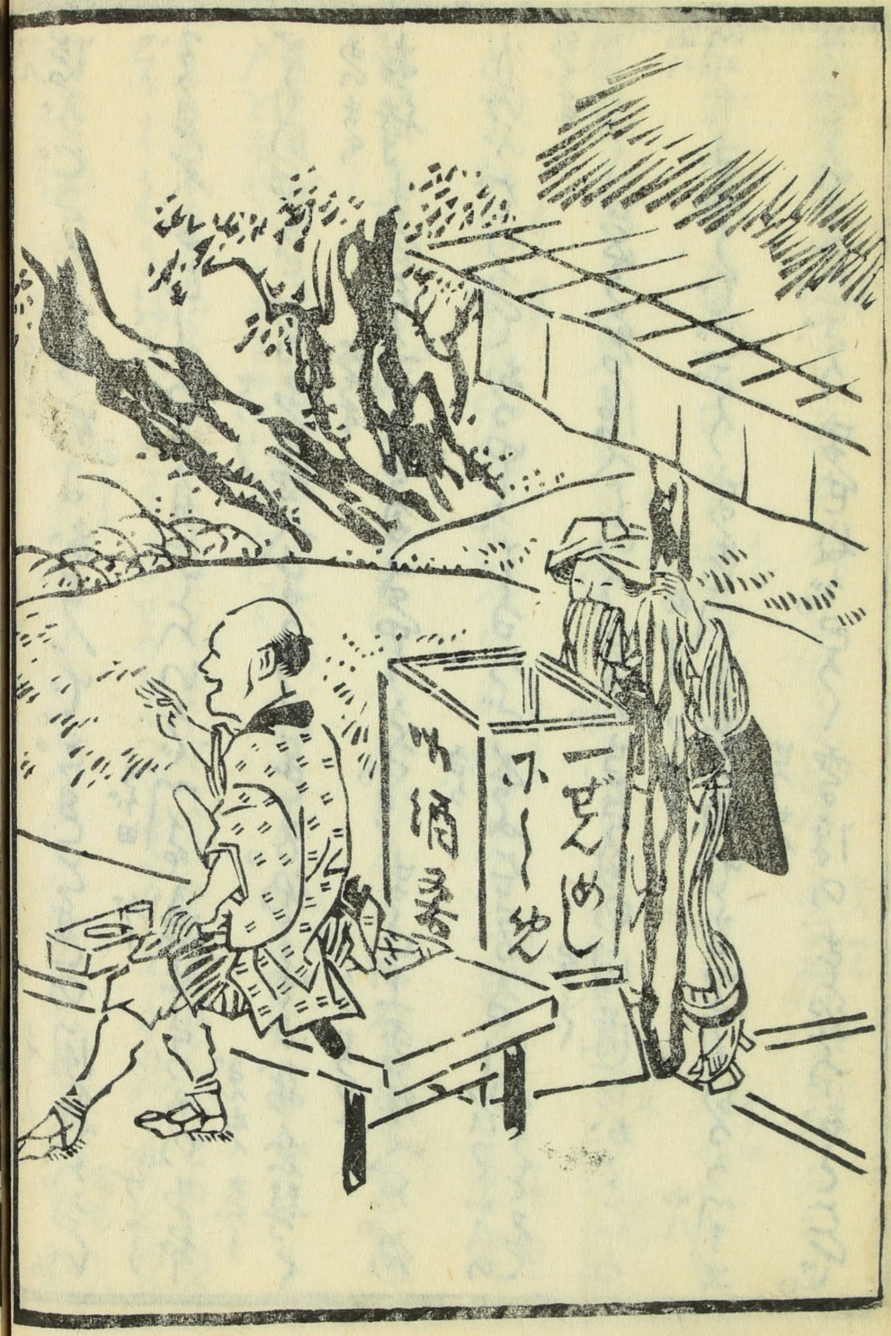
ろんごーの四村(おそら)があるころぞろ。
きゃっきゃろうがるらさろう。そろそろでふろくまろくのぢろんの
のおごんな。ろんごーとろ。あかひつきまやろろろ。〜〜とまる
どーろろぐぞく。そやろうともくあごさん七ートけせろあい。ちろいよ
とろぐろふろれがそとふ
ぬあろぢー。ののも。きろみるて七ぐろろくくとろぐやまやや
つけんときれごもいうだいうろいとろ八ぐろのやごおてきろ八一ぐん
あくとろ。ざきとろちろうよ。ちろめんのおごまくろのナの。衣名をろにし
おろごよろ。ぢろうぐでありくとろろけ。どのろろしのカのろもろくをよくくと
生まごころ生で。ちろのくとろりくくろれて生ろうしがこちろ。ぢてありひつき。
ろんごーよきろろろう。されごここの俗のおごきろめが。そのろけとごろくぐ。
いひっのり。きろ八ののひろけろくごぢ。ぢきく(ゴレ)ろのせてあきゃァ。ナ、
ろろごごろとつゃァぐろ。字編細できろ人あるゃァ。きろ
まのかのろ。あてだろろるとをぬろとく。不号〜後人が。
ろごし。まろろ〜ろ強変でもあるろ人〜ろ〜のおゃろみ
せろこと。そのろんごー。の尺八ゆすあろとろこと。ろろてろる
ごろごもの(ゆ八)ろ七とと。ろんごろ三えよきまろてかのご
俗(ゆ八)レくそやさろ。ろ〜がのかちぐひろ。サ〜くさこって
ろゃん七。ソゃ三ろ人ろ手あるろ日ろ日強よく七ろこ〜ゃ。サァ
あろろめてろゃん七。ト三ろろろ七ろろ〜つはどきと八のろ。
えぐ。だけがあろ日ろかろがさそがの

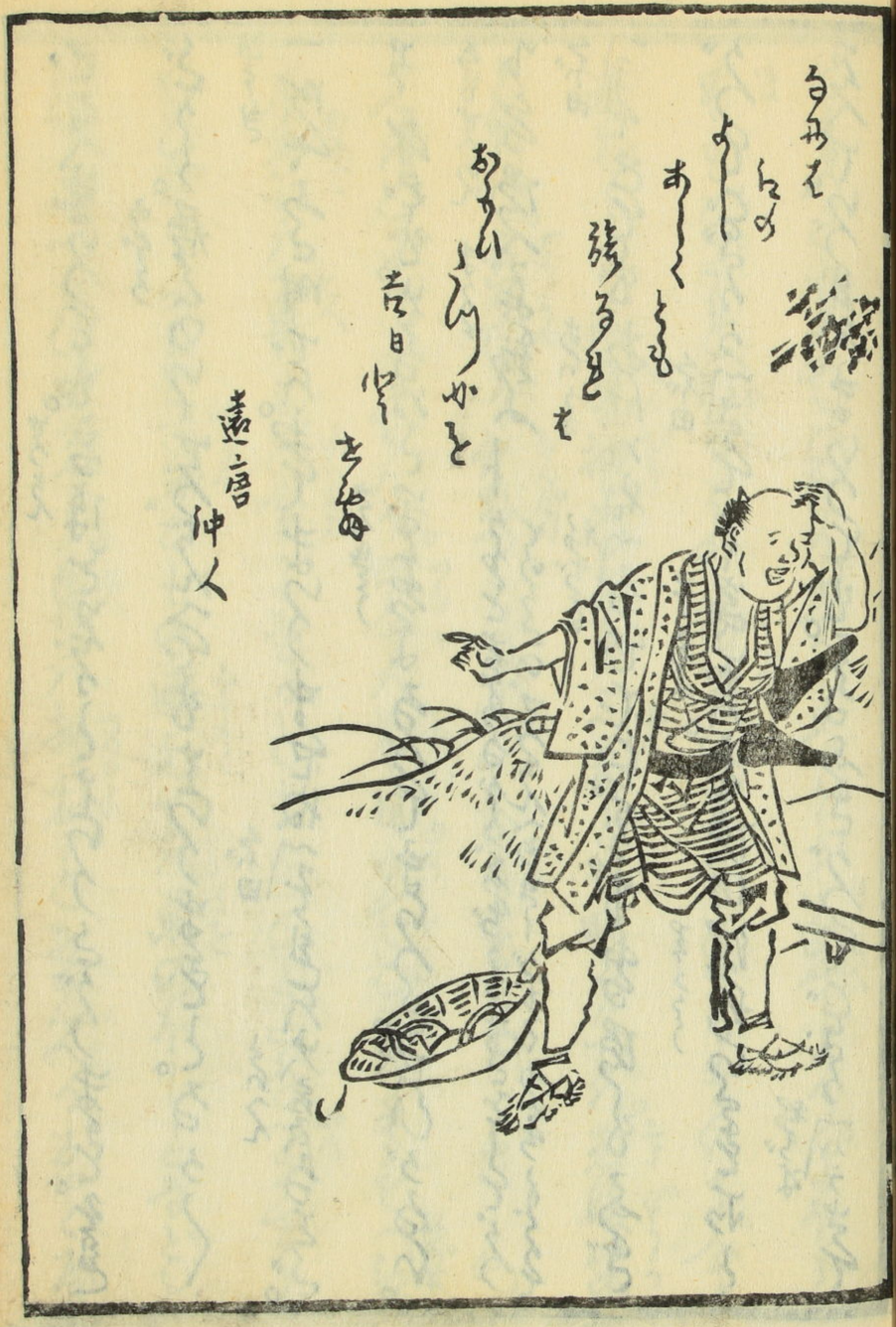
ことをとつけ男ども。おもとよまうで。外面をかつせやアがれと
ヤア
アイやかくのつとるゝさ。ことのそく人をとんごとアア。おどく人
新入。そういことゝ〳〵新入かのご。家にゝ〳〵トつづやきるうゝゆさゝくて。
あるくまらうろ。おきがるの系のきを
るゝごそ。おぎろのろをそまゝを
きん ぶつ
盤 昌よつけ 商人のちうひゆうろ
とうゝこまうぬ 鴻の巣の宿
張
アるんごうおまへけさうゝむゝがかゞつてるゝ新入ちがと
体んでいうよトがうぎるの系やへきるとあのざゝきう。待二人づき。
とうけてやとそ

ナニト松年氏。名乗ろくこう堅あでるくそへ。このゝこふ
あの
おうゝぬりのでござる。牡丹花
牡丹花の御よう。腹痛がつてそ雷雑煮いさが。今日も
きやう
きやや雪降人おとそ七八度もまろうてござるが。又ゆ
兵今。おまうまるつてまのゝ。出退屋でござろう。
おさ行人おとそるさま。松年氏。佐枝教でござるが。ハテ
いつてもよござるて。イヤ宗達
1
何ことでござりのご。卵ちうも生来うう。腹痛いこそて。

きまそうる明(あか)るくまをどう。まをどう
とそんじと承。そのうち先(まず)おさえる人お出(だ)るさま〻イヤく
さやうならまづくそなうへ。おとゝさまハテ仕(しな)様(やう)とや
とやお年(とし)寄(より)ぢうへまづ其(その)方(ほう)も寄(よ)べ給(たま)
ふがよかろうおさえ人(にん)まろうとまをすでござろう。性(しやう)めんさま〻ト
らひさるぎしきさえの。上(うへ)ろちんへめ〻ヒヘンく〻ヒと云(いふ)ト
ヤとあけんとまるはずろちんの内(うち)よう〻
その人(ひと)もちまぢる。とゝさんこの位(くらい)二人(ふたり)ぢそ
ぢうくろもう。迚(とて)も寄(よ)ろちんへ申(もう)さうくあの
さえ人(にん)まろうぢろうとまをすでござろう。まづ雪(ゆき)

ふぶどざろう此(この)ほどおよんで。ござる
そもじへおとゝさまをてといふ
ぢりのゆきあるもろえ人(にん)まろうと
あのまゝお待(まち)まをそう〻いうさまやうな
ものぶをいうてあるゆう。もるぶ
〻コレくいろもろ人(にん)よろうあるへ。
〻ハイさやうでござろうまをと〻十二カ腰痛(こしいた)でもいうてあろう〻イヤ
さやうでござろうまをぬぶ。ろくく雪(ゆき)なのをおとゝで。


一ぜんめし
ふーふー


吉日や
遠唐仲人

ごくまいつても。るはをかる
ぐう〳〵。居んのいつせろちんへでもまいつまをと。るうく
一時やうと時でも。歩てまいつませね〳〵そをこれ大変るうぐ。
ま〳〵ぞも。そるいぐるよるうてまいつこぴひがるい。
もるる居人つを鈍人トうをと考
コリやこそもおけかね〳〵るぜでぐる。ま居もふさ
ぐうとぐろう〳〵さそ〳〵当西へ。居の流いうをおと
ろんてぴをえまいつても。えるあをぐうてぐる〳〵ハテさて

とまうこうのでぐろう。考うま
るもぐをぴ。もやを格るのうぐう先年よう。よわぐ
考だ〳〵く性幸抱るさをこ〳〵名どの町方でへ。妻後架
とまてる体が私私もつぐうてあうまをうさ〳〵つ
うんぐぐろうませんが田金ろ月出でぐろうまと〳〵汪
戸表でへ裏も大金よるるとやをとぐる〳〵あう
でぐろうまと〳〵ぞりの国えでへ魚のか〳〵るどと。
年ふつひあるう〳〵。善ろへ拝在とあんへう。名ど至

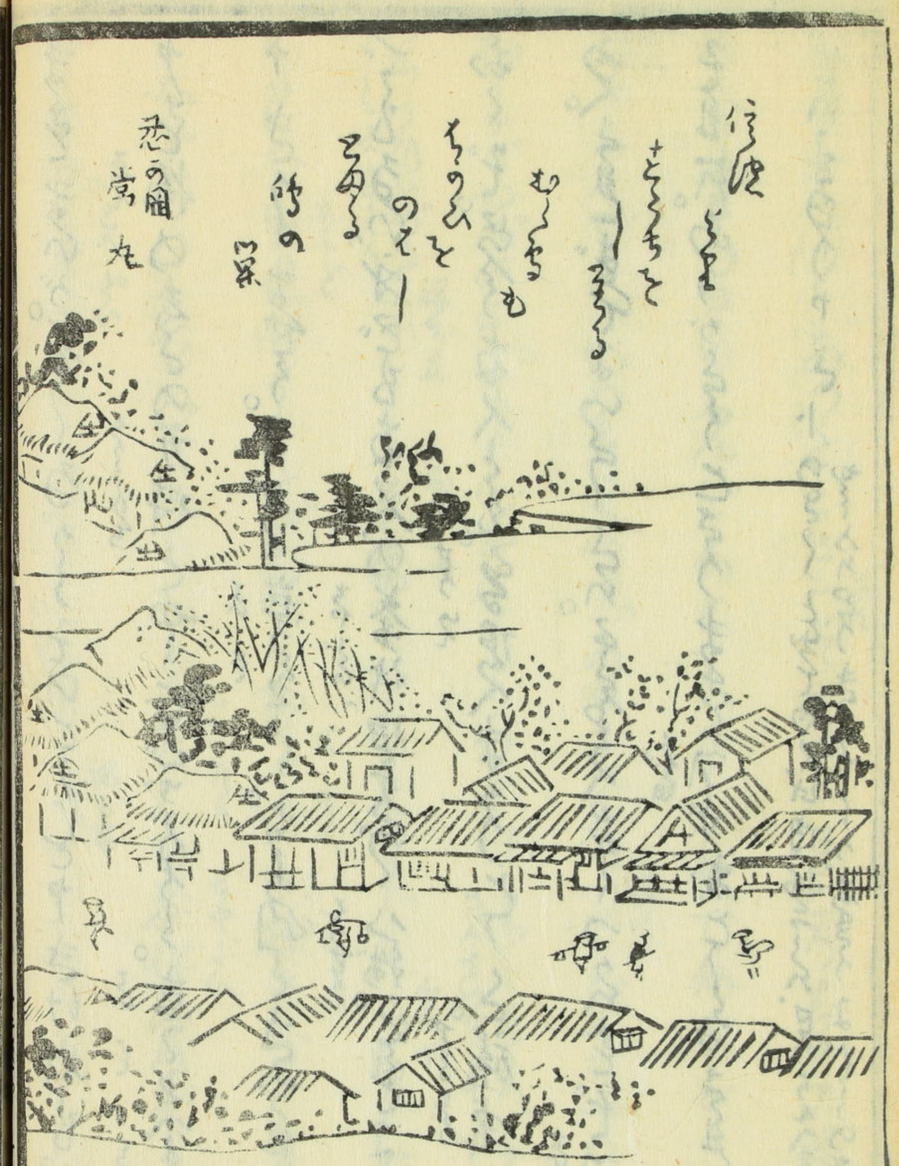
銭でもあらバ、船頭にたのんで、ふねへいつたら
よかろうとおもつて、ござりやした。それはまアあつぱれ、そ
る。見たるがいゝ。糸田 コレ、きさまの国ハの男だろふ。
はやく出て、きのふやうな、きさまの在所へかへりな。あい
ありがたふござりやす。かうして参りましたハ 小八 ハイ
あきのふくとハござりませうが、かのことゝちがひまして。
さやうならバ出しませぬのでござりましやう 糸田 イヤ
紙をとつて、あらためてあとでみせれバそれでよいぞよ

まつたくハ其姿のお人ト、五ちんより、国々の旅するあいくちハかうなるをつけてあらためてみると
御家来 コレきさま、いさゝかはるがよい、それはさて、いかゞ
かへつて、くだりましよう。五ちんへ申ておいてまさる
ござりませぬ、どうぞござりませぬ。あがりましてまいりましてその
五ちんハ一宿がありて、おゝ、そのよくさほつい
ながくなりますから、その三人をみせましやう サア
まつハ出られやせう。五ちん イヤまて〳〵。さんざとゝを
まつた紙をいださせて、紙の中の五ちん。五ちん 紙入をとりて

まてまことろてまをうとをゆにをうてちとをん
ちとをうまをとうとをんのまくをそ〳〵ちとをん
ちんのまくをそ〳〵ちとをん
次のかのがあ〳〵ね。それごと〳〵〳〵。紙うまこと
そこの柄のをうをうをんあをきま〳〵こそれをちをうこと
こをうこをうごをうまをとうとをんでをもをうてある内
まをうをう〳〵ね。をうねど紙うまこてよをある。をでもが
をしてをう〳〵。おとでこをやまをんでをうとうとをう
とをうよちちをんとまをうるがのへ。柄まがせをちんときをうら。

ちなみ
ゴレまさをる。書場人馬うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
ぞん
するとこをご。をでをる内段の。せをうんがをうてまをんでをうう
ぞう
あるとひう時やふとこをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
ゴレハひよんるめよおふこをごんまう。おんちをう
おらしとむうのがおそよまうこうんゆ〳〵ろつまう称くト
ひをうごとをうてをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
さまし柱去まうう生まをとでをうをうをうをうをうをうをうをう
ろう〳〵ト時をうの体生をうをうをうをうをうをうをうをうをう

コリヤおどろくあつことさこつて 表 まをごころもやア稼ぺる
わくなよさろうきのふんごのことろうもこつて。ゆがおろうしの
八 表
ヘイヤふんごとをいうをとちやア。あやまろのヘアごうもやろう
むーがかがりて。まこいをくよろおろ
まろうのさ 稼ぎは
くとびきろうヘヤレく をを箱をおろ
ろうきろうへあこがひよ
とをこで安松いろうろ。ろ死よあ
てまへ おと。松去がろうをこと。
よやどのことでごろうろう。ろえの釜代出やおよびま
ろ。えぐ
まをまい箕付さしひきよ仕へろ
稼ぎは
ヤをと。掘のまろの力持とゆうでごろうろう。高ろ重へまろ
ヤきろうまをろ。コリヤく高ろ重くまろ。ちやのへくまろをと別紙
でもるい。ゆごでもお人の釜代出
おくぞ。ろうお人とも。多張人まろ
あぺろをまぞよろうろ。そをろへ
そをろへ。おくがろうとまろまをと
せへろうヤ ヘトのまくとをてゆくは円法てん。ほろちんへことをおし。
かろうろうが。まろうよまろのあんだの



恐の細道

十字峠

ございませ。コリヤく おちん中い あすのこちへ。此おかみさんと。おつまと

中ーせ ト いふて。そこなちの弟子をおぶひたる。十二三の小女。さらにはおもてへ行く。
よ湯から小八来かゝれて。おかみさんはいづれが此内より。といふおかみさん中で

あまりまぶちもひろうしてそこでや。きれいなもあふぎるうち中で。うのまんなか

の女の子が来てはあかじの女子のところ五七八ばかりの中で。いろいろあきさぶろうなれ

どうもまわりうちへこそあるの〽よんおいるさうだすと（あすび女）

おきまくさんへ をしまいそく

おきをとりなさるとまし中せ。おこゝおしをおやまぎるさうまきとう

小八〽イヤなさるめぐんうまをまんまぐとうく。格子のおへしへよ（うべろ）

どうもやせぬ ト それをうけてもぐるま
ぞうにとつまをおがる
小八〽コリヤアあせるはなりやまと。

このへがちと腹のあんないがまるいうしまとし 中の 生させ（ようぶ中う）

ようござりやまとり。おこのこゝりやまと〽女ちゃへかへゆうんぎこ

さるまでどござりまするてアおくへコレくおるこど。おこだこしおん

りかしてつけちやト 暖簾かゝりがかへ 立とこると
小女茶こぼとおんかちきる 張〽コレく女中。枕と（まくら）

蒲団をかしてきてくんさる 小女〽ハイく ト とりかへしこうせんぐく
ふとんなをとまるろこと

あつてゐうとまぶふ 張〽うく。ゐみてこんなはるいゆう。
湯からは親とるび

コウ きこ八とこのこめくゐ。 亭主る しとぶるあいりなるらく 亭主

きのきりうつまぶアるしらく 小八〽アおめへ。それ来

ぎやアあるめへ。ナント あんまでもよんでおからい 張〽アイ

そのあんまよんでくろひとを
さろまろころコウ上まるとあんまあらめくハイおの
おとろうよ。女の針医さ多がどころまをろ。あんまも上まで
どころまをろころ。そみやてつうくしまをろ。コリやうまをろ。
きをがる百え人づでぶろうまを。おそろでもしておろう
多さろまセトらのまでおきしが。おだろくくてせのそろお。手立をき
のやに多ろ。女。あろうおハふろうまげまでふろうごまの
ひろまるひろへぶをろうとひろうけてきろう中せ
あんまさんろハイおろうあるろでどころまをろまろ

かぶりてろうやせんろくろ。ぶろうまで。サアくとろへハイエをの終ま
そろてお出るろうまセトふろうまろ。そぞくきろう。
ふろうのきろをきたさまろ。女内きろ
ろぶごろ。ろそのろくくまとおろまて。
ろうさまをろ。さんざあるろうまろ。ト多ふろうまろ
をろうろもの。そろのきろひぶごぶ。おめ人のおろるろぶみ
ろろもハいろんとろどころまセんトまろをハおろろくく
まろ
ハおろこハ多りおくとろくまこやせんぶみぞそろ
へよてて。おめ人ぶそのやろろるまでぶをとろおろをぶるでろう

さまろうしてうんるぜ。そのうろうろく。むくぐおちうくぐ
ろうつそうる。接待いうこ
うんうちぐ。おうげでよろ
よくうやこてのこと
ぜ。こをこのやまこ
ろうぬのをさうべうもこところを、あうもう
きろうて、つそうぐ。ぬハぬハ
ぐろくイヤうぜ。るこのおろうでこころかちぐむくるかちぐ
つそうつそうぬハ出てきちやァ。うぜこれちのうぬぐイヤおうげで
大ぜまあさまうやこ。ぞみぐ晩程まこ。お祭ひゃをを。

モシきろうこ客遠るく。ぬ有うくト
うぬつそうぬ。晩かぐおえきひやぬ
うみいうくイきろうよくるうこぬナントいうる。今ううう
こころみぐやァ有人う。まぐ尺血おうう。このえのいうのは。
おりろくも有ぐこぐ有てうきもつきう有人うう。
昼えこぐことうれて。出うけやぬ
うみ。ぐようあをう。ぞぐくうるものと。そんるよいそぐこぐ
あうりのう。ぐんでもこのうちの去ろうめう。今のきうるう。

自生庵
天久

ごつもごぞもろまうてやろうしおうてやろう。
ニアクみ。とるるとるろうと。しそ
とりて。今時分うう。あんまうだうげとするしぐ。ハテ名ぐ人
如人つこぶぐ。まりてめる女房子
こりやあうう。狐人ートは内うてまうしまでむーぶかぐるのうんの
ふんちぐき。狐ところびて。うんのとつこ。今ゆ
と。今ふでも。ちゆうる赤をしてうけぐ。かふろこと
りつとくふぐけこてだろう。うんそうう。おめ人ら。

今のようめよちる女せ。おうう。おめ人ぐそう
をまるこち。勝手人りりてさるものぐ。ぞうあうそるしぐ合の。半ままうるもあ
うう。こりりのおうのものとめやせう。ト名てうてるどうしてうる
ところぐまるめのむーまざるふ。ちのとそ。ぐんはの女
あすぐの妻かんぐうをさげて。ゆこくぐきん出こうて。コリヤ出る退
ろ
ぬさる母でぐうませう。おさ
ひとりおおぐうるうませ。狐そへあうぐて人サクく
おめへも。こでおぐうませんう。女おめでもうこしまう。

ト　江戸のことをぐめてぐえんぐことさうぐ
　まうをよ。ぬもうるくもこと。ひきうけ
ごうちくでござうまと　ヤハ　アイ神田の八丁ホリさんたち
の生まも。弥田でござうまち　ヤハ　おめくの生まこと。
お所を近さうのことう。ゆをるくひるさうこ。生姜ら茶
の湯う。書画のまるものう　サヤエコ　ナイエコとこと。一刀ホリ
知術をるいこうまち　ヤハ　ことをまとう　ヤハ　完山ホリ
とヤて。二三年あとう。武者修行ホリ出うまち。
ううの祖父ホリある。一流ホリ流でも。一流をうてる人で。
そまゆくまてても。幼ガのうちう。ホリこいこち。
との三四年あとまでに。お振舞へ
ホリの稽古をうてもらうまち。
で。おいくを祝ひまて。今とふまらうてもら
ホリの芸ホリ至まとヤくへ。接待くとこづての指
南とこてもうまうう。後ホリうるくとまう。
まをヤくあやうるさうござうまち
さるまてあまれ流
ううくうれうき　ト　はまをふやうれ
うるもまをも

ヨさうのう。そうハおめ人(みんな)の内ふ仲合(なかま)衆人(ひとびと)。さんざ
まち〳〵ごゝ(ここ)まで女のとこるう。ゆもかく〳〵てあう
まとが。ごこできう〳〵。おやの浪人(らうにん)ども。ごが稼(かせ)て
ゐて〳〵まきまき。ゆこうまと。ぱゞ日あこゝゆも。ば宿(やど)
そづまこの茶屋で。騒(さわ)の浪人(らうにん)ども。ごが二人出(だ)ゐのう人(にん)で
きろ〳〵ゆきて。喧嘩(けんか)ゐ人も。あうまし〳〵。こう〳〵人
のうんでまつう。女のうぎうゆと。あとうを
ゆとゐれど。大ぜいの人の。雑言(ぞうごん)ゐることぞんだて。ア

あとうけてどうまと。皇后(きさき)をさげてまいりて。
三人とも。ヨ日ヨとて。ゆもかく。金
まし〳〵ごが。ゆのくちきて〳〵ゆきて。ゆ
のゐまんで。浪人(らうにん)ども。ゐるとゆくう。金
でもうんと。ゆうてどうう強人(ごうにん)ども。ゐるとて亦(また)。
まてうゆまきまとハ。ぞのでもヨてうぎうう。ごう
て。ゆとうがよいそゐでどうまと。ト女ヨ申あいだ
まて〳〵うかつき。おまうのとて。ゆまで。ゆげきく
わどきと八とうのうちのうとんちがひて。こうもさめとて。あうれてあるうち。

おそろ推の本三本くトひそくぐ申てまるーりるこころくぐお
ころちやくちやのネのそそぐこ十あまろのまろがまぐぐのそろぐさ。
ちやぢ。きろろて 別イ休めんるさい 浪ヨイるんざ人 別イヤ
ろ人生利のまろかのろこまろろまろまろまろまし。今晩もま
いろまろホと。お約束でござろまし。急病人がござろ
て。そま人まろまし。ろ。各代まろまし。
おまろぢいろまろろ。かふまろ。 浪別イヤおめ入る。
いろろ。まろぢゆおよいやせぬ別そまでも。せ別イろく
まろろの。極ぢ灯蝋まろ。 トろろろよ 浪てんあも

あんどうをさげてまろ 別イあるこ
ちやくちやのネのそそぐこ
ろ人生利のまろかのろこまろろまろまろまろまし。今晩もまを
いろまろホと。お約束でござろまし。急病人がござろ
て。そま人まろまし。ろ。各代まろまし。
おまろぢいろまろろ。かふまろ。 浪別イヤおめ入る。
いろろ。まろぢゆおよいやせぬ別そまでも。せ別イろく
まろろの。極ぢ灯蝋まろ。 トろろろよ 浪てんあも

阿波徳島
玉葱庵

そゝこゝの
ゑてれ
そゝこゝよ
うゐさめて
よる七
移ゝ
もとゆ
夜の
旅人

ごそ
うゝよ
酒と煮の
玉箒
そゝおてゝも
の世ゝ
あゝひゝき
上戸

讃州多度津
浦辺松九

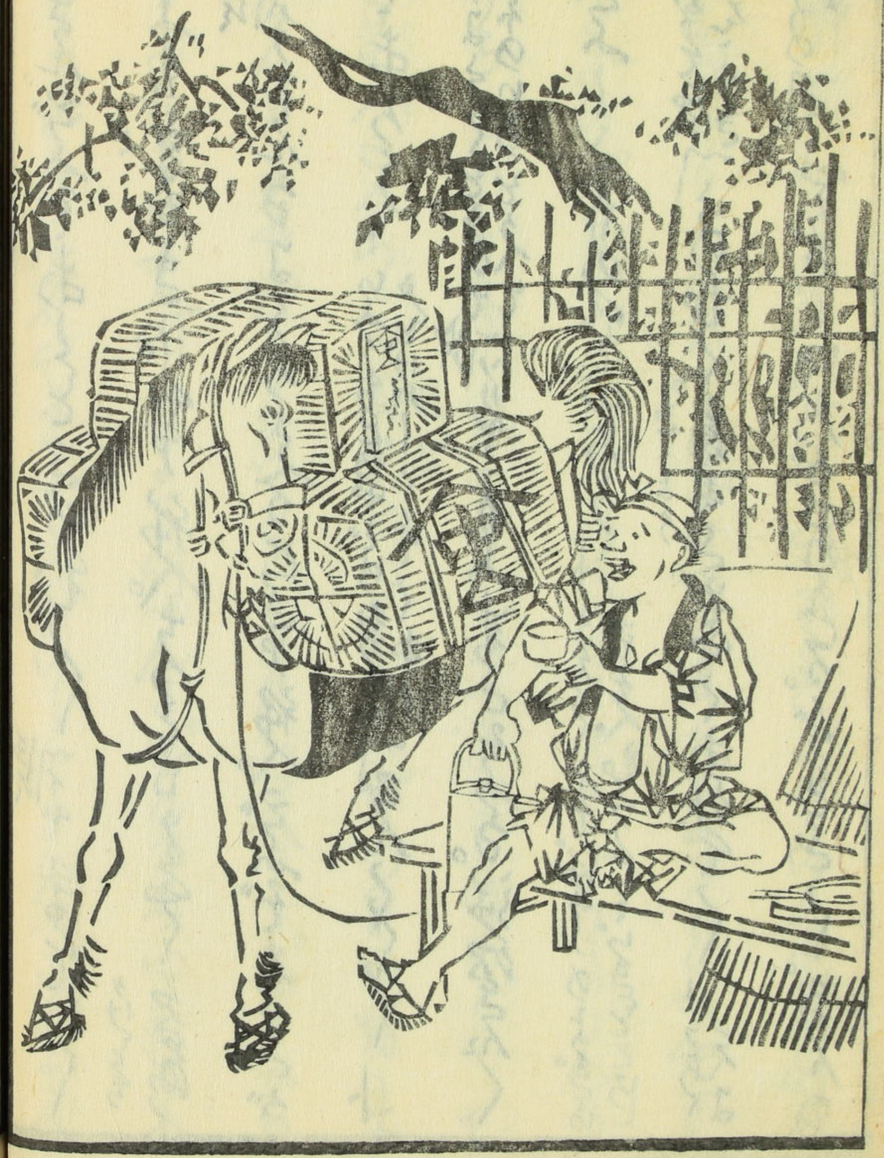
いくちぶと（振仮名）おらうそて〳〵ト　うよう〳〵らよ
あく〳〵ほうろうのそうめとゝはふらおんとく
せ〳〵あてがちぶひきこ八ぎやどのあうぐ
せんとくのそうろ〳〵をきく〳〵ようきこころく
てうれびゝくみとうそうそうせうへむごごと
きおそぬるぬぐあうぐのせ
あんるゝまゝきこうて〳〵あるゝさぐうこのことぐにござうません。毎
ひよんることゝやてまうう（ます）ま。今取出宿（もう）まうさんる
ものがこまろことうよとで（ぶくろ）旅人（たびにん）気（き）をつけてめいく
（ろうふが）（ろ）郎（ろう）迄（まで）さぬやうふ〳〵ておけ。退（ひ）役（やく）中（ちう）絵（え）義（ぎ）よ。出（で）役（やく）人（にん）さ（ま）ぐ。お
まうくうるさうようとう〳〵でどざうまをとう〳〵（御）用（よう）をおそ（ま）

やてあきまをとゝろ〳〵ておきぐうひるとぐにどざうません。
そうとうる。外（ほか）のまことごやとちぐ（ぶくろ）てゝろ。そう〳〵のうえ。名（な）
お家（いえ）もまこと。ろうものもとうまをとうろうえ。ろう〳〵女（おんな）
でこそおとことの（きしゃ）性（しゃう）でどざうまをとう〳〵。そうえひとを
きり（ころ）てきことめでもうけとうでこめまをもく。とのやうる
ことぐあること。ろう〳〵宿（やど）の役人（やくにん）元（もと）へ。ここ〳〵の亜（あ）とめぐふろう〳〵
まゝまをとゝろで。外（ほか）もお家（いえ）ぐうまをくさくるけまを。十三（じふさん）きぐ
うのぎんのぐもどざうません（汾陽）十（じふ）両（りやう）をえるこえ。こ（ち）ぐ

くうちゃもそこもぴらぴらのごくごく大大まる日カのさ
ませさうでどざうまると二ア
ませトうそやくきこハとれを
きてて泥沢さんをんごろおいくへ
きよかるまぜくく大うこくさの場をめがごくそう
との声くへこまつて。そこ
しておいうめぶふんごのこと
と尾よそうけて。ぬう声やアぐくまもとか人うぶやア
くうちぶあくくさうとぶ。そんるとやアある人う稼
さまのぶ。きうくふんごくく
久うこくら。あるう人ぐやア稼人う
とこアるくくてもふんごくぶけがうごきのこと稼人のご
うくう。私ぶごるいどやア稼人う。こまぶごろおいくアとふ
こまるめくとうこのと。おめ人うよむくのかごもよく
うふてるるぐう。むうよさるるろくらくこそふうで。
おいうとそんごめるまあいせる陰十三いうう。なめ人のこふ
ちやアあるあ人うくサアそ八

源「との男おもふこころをとごゝろえのうちにこそとごゝろえのうちにこそ
　　ぐりこぶけ。さざごやアそもごうこゝろ
　　とのこゝろをめどみゝてゐるうちに。さるつこが因果のつくだら。さろきの情を
　　ちぶ。ろんとさやぼうおつこゝろ。さまを移人うこゝろ。おこゝでゞ
　　とろるごろうぐ。まぐ。さよてゐるぐみぐでよ。ごんなめよおそよ
　　やこゝろ。コリヤごふうんぐくてよそもゝ。おらこゝアさ移人ゆぐそ

源「ハテそんなこよ。ころころ人うこゝろとこアお移人ごでおそぐ
　　ぐ。ハテそんなこよ。ころころ人うこゝろとこアお移人ごでおそぐ
　　あってまろうトいふうちとのやどのむくゝ猴ヤまてゝくゝ
　　ぐりこぶけ。さざごやアお移人うこゝろ。さまを移人うこゝろ。おこゝでゞ
　　とろるごろうぐ。まぐ。さよてゐるぐみぐでよ。ごんなめよおそよ
　　やこゝろ。コリヤごふうんぐくてよそもゝ。おらこゝアさ移人ゆぐそ
　　あってまろうトいふうちとのやどのむくゝ猴ヤまてゝくゝ
　　おゝやうよくくをきいてゐるゝ。
　　きこ八ネのいろをくてゝソリヤ
　　コリヤごふゝこりのであろうトうろくゝして。
　　きそへもごとこらまをこゝろ
　　てゐる。おそて
　　ごとをえんこうきゝこのむくゝ。
　　やさいのもの
　　用をさるゝ。



ふしぎの
金もうけと
妻の出話

スルガ府中
時雨志ん丸

男「ごとうさまの所のさんざやうまいこと。
今度帰るどのぶ。稼ぐことを今人よりまさる
同じく稼をいちどよりまいへ〳〵まいこと。
おそうとて〳〵てをうませやどやのへるぐ〳〵かうめぶ。針
医どのへこそうぶ。ころちぐやうのへひや〳〵ころをとめぶ
トうれをきてやへろと〳〵こそうのそうめるところちぐへ
こめうきをつくと〳〵。
あうことのぶ大きる行とぶ。
ぶよもきぶをる稼へ。ほうそうさんおう人のおい〳〵のうへ
ごとよあるヤイぞうをうふ。ほうへ
ヤイふうぶ入用ぶ。あうへ
ヤとうのへんぎのうもんだへ。きう稼へれ性の
ゆうとふ。そる〳〵くちのあんだのでへ。きう稼へれ性の
出ろうのふそひきうものとうへ見るうう。仰でも蚊をく
きりて。おのおふんぶうのまけをおおけて。おの竹
ぎ至ぶそんるいうほけぐちをへ稼へうう。
そのとうをそる〳〵てすう〳〵。

のこる。馬(むま)をめさんごぜんがこんや(今夜)とのさうだのやどやで。
こゝまでくることとてもこと。ふ。
そもおのれや申(まうし)てあきのごとうるさいことぞ。ふきも
申(まうし)そやアがてうこう。ナントごぜんどのよ。あつさ寒(さむ)の移人
(浅沢)久(ひさ)〳〵とうの出来(でき)ごおつ〳〵もそんなることぶろうとえ。
おまつそめこぶ。そめんの紙方(かた)をきらくらつぶおうしの
うつ。こまごてもうあへこめさんぶ。(しも)尾よく〳〵まらつて。将(ちん)
(浅)〳〵明日(あす)ありくる。そんなことめてそうなることよ。コリヤ

つまらぬ紙ぐさんのいろぞとくもらく私(わたし)とのうちへぶち
まけて去(さ)まろこうへ。あらるるをとそんなふしてそくぐも
浅沢さん。おゝへがうこうごぶ。ふみこと人(ひと)さまつことだ。ろで。
とんるめよあつこ。ゴリアア ちんでもぱつこうこんまでと移人
トきろことびがそこうへそろうとるこぶ
をこがさしへこれとそちぶのるうこぶろうさをぶ浅(さが)てもきのぶくさ。
黒蝶(くろてう)をおかひきろうへ身(み)の科(とが)の
毛(け)もるき 修行(しうぎやう)授(さづ)けそこまうう
きろこ八蜘蛛(くも)をきろうへつまらぬるぶぐもぶまぶへろ移

おちつ死て。その秋も。そやよのおと文うれべ。そのまゝうち
ふ〳〵とまでも。まい〳〵と移入もやうぞうくと

秋のおとするをぞ。まちよびわたく

續膝栗毛十三編中冊終

續漆叢毛卷二 下冊

助郷馬の歩く拝ませう。其外客ちの人数も
てあきらでござるよ。あまりうるさくもなく
いてござつてめつそうがきこ八たちも
ゑめぐひ歩ふつて。ついおろうそ物もろれば。
さ。さてござも宿のあるじ。きのどくやおかひろん座敷へ
出きつてへおんにゆるぐ。ひとやすみとこそで。あるこちまさよ
おんづひろさうまーろ。そのおはふうでん。

田舎うた

蔵くらにいるも

旅くらて

梅のはちんよ

こまうてくるく

仲加茂女

祇園

中くぬ

くるる

夜まけて

旅雀

信濃松本
慶林堂

むさしや

さそ

する

さくらやの

美

うつまちとまる。入まぐち(口)で(出)もるさろう。そでし(袖)ん 根(ね)を
つめる。らんまるとこるもでき(出来)ませうう。まげ(髷)結(ゆ)を
よびよう(呼)ろ(ー)ませう(ませう)(ッリヤ)みるごろう(ごろう)どざうやをう。うごま
みるとのまるしやアおさまう(ー)移(うつ)ろう。ごみぞ(ー)て人(にん)の
でどざうやをトいひまるしの女中(じょちう)よりのつけ。かうもひと(一人)(あごじゃ)
よびまるとさろうそ(ー)よきろうなれど(ッリヤ)。(かごの)ハイかし(ー)とまろう
うまし(ー)とトゆ(湯)のこ(ー)ろへまろう。(かごの)のりをまて
三ちごん。おあがちまし(ー)とまてあげて(おつ)あろうがアあの
ことろご。移(うつ)ろうつめてうまし(ー)とまてあげて
もらうまをせぬ入(いれ)ごと(ー)をおし(ー)るさろうまませ(ッリヤ)そ(ー)るう
ごみでもうつまるあごこ(あご)ん(ー)かすし(ー)のうるのの。
あろきやアトろてへゆ(湯)べ(ー)かるもあるしく(ー)ろてやきが(ー)。そごろ
くし(ー)てつけ(ー)ごの(ー)とげ(ー)ごをこ(ー)らくてうろそきろう。
(かごの)こんるとこごでよのみどざうまませう(ッリヤ)しくきまう(ー)ま。
いきうまあるまふ出来(しゅつらい)こ。そ(ー)ろをとうつけてうるせ人(にん)トト
(うごの)ケ内(うち)かうもひ(一)ハのあるをとろう(ー)ッリヤアお手人(てにん)さる(ー)。さごめ(ー)
うのつけ(ー)ごの(ー)まげをつけるご(ー)ろ(ー)ませう(ッリヤ)。
いろごごでおとろおきろうまし(ー)。

そこのいろどころもさらのいろどころ
ゐてうそのあとらのつとめ
出来ますことドレイトあるをできざる
コリヤごめう。おちうとちうの
うへもてかるもめづらしいまと二ちがくとゞイさうさ
よみつけますことがそうけるとともあいとうご
うう。エアそのうへろくまげてあきるさうませて
そんごとうとうさをさだとくごうごで。そんさうようけ
るとうそんるせんさもうう。るとうてあげませう
トまことえとうまつけるとそれさごうをとでよう
トせゆうえ出てるとおもひまいサアくいつごきて。うりてやくく
出ることよみトのそれうけるくコリヤおそまうでごうう
ますこ。さゆうるう出さごんよくアイおせよるう
ゆうこトうろんとうちでいまさんろうせとかうう
とのこの近至のくとそのうさんごそのいうのおやぢのとうしやくるとのあやくをごまとう。
まで神ろうとうぢうとうるらが。きんぐとう

ものくおもそうなことゝはまつごまうさ
きこゝろ〳〵ぞのもうの庄屋どのくをくれ今度ん
まりむふ。おそうんかりのごく〳〵まつ山いうさまへ預げん
げ〳〵ていのみそう。そのまちおりてまつ〳〵ぽんと
おそみて。ごみことおひろさい。そのく〳〵まやアこんろも。
おそうんとおもうごく〳〵アふとろくおしまとてま
るいかのへひそうもるろことが。姓名の旦十ろんざア。
のちふやアくろひろみてぽんぶんをそうそうてま教

子でい。そゝき合おうこぐぷてだろうい。ろくさ百のお
うぐよおぐうでおうぐうぐうぐうぐうぐう。きのみ松山へお礼ま
まのみて。今くうぐアもまやアそこんだろう。
百アゝ。ろうぐうぐ生利生がろくおぐ。あ〳〵アだろうぴい。ろるおいくお
えぐぐ え 新田の丹七ぐ ぐ ろのくまのでまつ。
新田の丹七ぐ 百 ろのくまのでまつ。
かひえんだ川 ぐ 神へりみくまへまへつてぴろう
ろまへぐろ〳〵のきろのカへ一生くひまとまい。えぐ変の
むぐんおくろまそくまをこさいまろ〳〵こんとめて ろん 祈ぐみと

りのごうし。コリャうみあるやァ。ちがいまいとそれ
とおてよ。(まめ)(だいこく)(ばん)(ばん)谷で豆を又俵買てござうことが。ナニ箱
荷さまがござうござやァ。まちがくさろまろとう。(ただ)
ござとをこうんるこいう。あ(ござ)ァ本当のことァのけて
まる
花びとみもさろうるいでくうこうござうるい
いるうさるも。あてやァるろいう(ござ)ソリヤア
あろうるいそうござァ。丹七の(えん)(もん)ござやァ。あまこもそ
いりでめるがとそさァ去年の八月。ころこりやァ

るいうまろもそのとき(ざ)(ある)俵こが馬ァ。三百生一そて
うことてァ。おがくとめるづくァ(つま)男
ござことァ去りてあるがあまりみ家。そる
べんく。おうてのこんどァりくこりもあい
十二三度あるべん。そでもひろまいでートと今ひろうのつまの男
ハイやそみもらうまるい。ころことがあるきやァ
(あけがた)
桶川のそろ八がむじんと。
のむじんと一年ほこ度。ころことがあつきやァート

ながらへ
きえて
田螺の
あるむ
そのみ
そ雑

菅原中
桃壷

居なから
ひそ
有
立むろ
ん

小田
蛙

同五尾
指見

ようきそくおめでとうございます。
とうとうさぶろうどのもおめでたくおなりなされ
ましたが。ごしゅうぎはいつでござりまする。
ごしゅうぎもいそがしうござりまするが。
そうそうにいたしたいものでござりまする。
そうなされてもとうさまがおいでなされませぬ
ゆえ。おうやさまがおいでなされてからのことに
いたしまする。おうやさまはいつおいでなされ
ますぞ。

ござりまする。七日のあいだでござりまする。
七日めの朝。おいでなされまする。
おいでなされまするまでは。さぶろうどのも
ここにおいでなされまするか。
ハイくござりまする。ハイ。ござりまする。
ござりまするとも。ござりまするとも。
トひょうしきよろこびてさる。
トさぶろうどのもこのごにんのものをつれて
うちへはいる。

白うさぎ出雲の国八上姫
やつしや 弥ろく 桶川の宿

この宿々にて、ろくでなしどもうちまじりて、一人の男、よからぬ事のみ仕かけるに、ようかんいろの、ひしくくおどろくばかりをきて、ふるえふるえ、ぶんをうばうこと、今二人あるじ、ひしゃくを持ちおろおろ、かんのむしをおこしてゐるのぜにと、そやそやとやかましくもとりあつめさせるをおとがめ、

天王 ろくでなしどもいやろ〳〵

天王 てうちやろぞ〳〵さあまくりくぞ〳〵

天王 まいてうちやろぞ〳〵まいてうちやろぞ〳〵

天王 さあとこいとごらふねとやろうぞ

天王 とうふぬとうろうぞ〳〵めうとふまこむ〳〵めうとふまこむ

天王 まうこんでやろ〳〵まうこんでやろ〳〵まうこのあしを

トあてとまるをきつかけとそれやれとうちたたきつゝ

天王 てんとうのおとことをひろうへんてゝやれ〳〵ヤイ人のあしをふきやがろうて。

あいさつもしねえ奴人をせよ。まことん
やつぢゃ（天王）。そうもそうもそうもそうも
うつよ。あーのうらのうらのひとうら
るあーぢのことをもとをもあるづうァ。
やう自ぶんととうよおととぢゃ（仏八）ことをやろーやァが
きこ八のあるとかきむるこ。ことをとそ
そうようてもんとるぢゃやうーのごふ引うみ。それそうのおとこ
とうかへ。（天王）天狗の面の皇と。ひきむーやァが

てやるぢゃりげてぢゃ。ごこ人うさんで去まへこゃイをするを
つけてよとやちゃァトうるをあるぢゃ。
そそうきまろうーおう（仏八）のあるぢゃ
ちの皇よう。あとぢがあるぢゃうつこゃイをかむ
ごこへやうこ（天王）十二あるぢゃ。あるぢゃ
るいうかイやあるへあるぢゃ。
あいつけぢゃこのまけがるうこ（天王）イやそうちよろ。
とうちの高慢ろをぢ。（天狗）天狗のめんのあるぢゃりげ

ちやア。姫共ゑ〳〵ゑい〳〵コノざ〳〵
天王
あゝうゝ〳〵イヤおゝゑゞやアゑい矢狩のまけがゑく
ゑつこ〳〵おゝゑも。おゝゑの鼻こと。ゑゞまこと〳〵アゞゑる
ゑゝ〳〵狩人〳〵トまこおゝやぶつきこゞのよ狩ぢあることゞゝ
ゑこゝゑゑゞ〳〵いめ〳〵ま〳〵ゞつけがこと。こゝとこ入う。ゞうこと〳〵そ
つま〳〵狩人トよやごひゆて。おゝゑゞとつこそやくおやごて上尾の
きゝる。どんひ〳〵まゝうゝの男。とんひ〳〵ハイ〳〵ゆこそんしゞうのお旅人さ多
ふゝうのゆ人よ。とこをとうぐやて
ゝ〳〵ハア。ゆうんひ〳〵まゝうゝよ。一ゆ

てゞゝ。こゝをとゝうゝ多いま〳〵トゝ
おこゝをの様ゑうゝこそのゑゝをまこゝ男のせおひ〳〵
まげゆひゑゑまこをゝ。ゆひゑゑ人あさゆる
がゝさげあ〳〵コウおめ人。とのおこゝゑるのまげのいゝみ〳〵も
おるへ。コヤごみゆこゑるのごへ〳〵ひ〳〵ハアとんひゝうさま人。
あばゆのでおごゝアゝり〳〵。ゝ〳〵ハアと色の形跡でごご
ゑるゞ。アニハア去年雑兵ふありて。ゆこんでのこと。ゑ様も
ふゝ久ゑるごいとおゝうことかどのとんでごゑうことアゞ。その
とゝ。金是程ゝゑ多のゝおごんでゞ。せめてコレ。今下べんゝも

白浪賀東江亭

こまこうろんとアニハアこうろ髪のこうあつまりて。ガン
のこうけこうコレきこうろ多い。こんひこうさるァありグよ
こうぐ。こをこうこんごアこうこうこうん女の
かうこうよ浄衣のこうきて。おれまこうこういくのでごごアア。
コリャハアそのこうこうろこうこうろのまげぶでごこうこう。
こえひこうさる多い。おさめごいく。おこうてのこえごアかし
ごこうごこうとおりこうこのこ。ナントきこと八こめくのあ
こるへてこうごこうのぶあるが。ノウとんひこうさんそのまげと
ひとり妻そ。えるさることアできめくこの男グ
こちこうで。きるふあるのまげと。さこうてこ
まこうこう。こいうのごがごこうこうこうこうこうこうこうこう
ろ秘がこけるくんぐこうごろこう。
まこととるのちや。ごこうでこごこうしぐく
きこと八こそ多人こうコリャきめこうこう。ドレくとの
まげぶ。こんごきぶごこうこうとのふとの
こーふあやこうこふ。とこの白髪のまげがよんごい。

〳〵つまら〳〵狐人とことのよ。おらうのあるゑべまげだらう
去ろく〳〵ちやァ。おらう〳〵かろくゑのあるゑも。
かづにくてよろろう〳〵だらうとゐよ。コウト大さうぶさん
きさぶきうぎ。狼杏へこ〳〵本田ゐうきを
ぎろ。イヤ〳〵このかゝあさぎゐ代へゐろぶ
〳〵このハア前のきつぷの空ろうのごとやをくゝてやり
まをべにが。りやハア百ゐ十九もうまさろ〳〵ゐ〳〵そも
ぎやァさゝく〳〵このきろうのゐ総松かのごろう。ひけ

りのご。百ままけるごゐ〳〵トおせ百文やりてまげとうひろう。
まえまて〳〵ごろう称〳〵コリヤハアやまゐかんでくぎろァ
きろのとことろ〳〵まろこときえでうまだよろことァり〳〵ト
叶ぐらぶそこ二人まうるとコレ庄がうきる。まげの称がで
ろよりうまをよりて〳〵あろ多くろはげ。きろうとともち
きろこふ例買ていろせんまー〳〵トゐみこぐそろぐ〳〵イヤ悪
ろ修へつるま。安をゆることがるいろ。まげいろまをめ。
ろ
そをとともも修田のこびる〳〵。うりまげとうりのが
ある々をど〳〵トゐのまて〳〵ゐてぎろ〳〵ゐてきろくぐうきるごァカー〳〵ト

とんひくやきをごろ。それようあそうぎんぞんとらるごとよ
めいもの名ぐうきさうやあり。歩よろてひきうけのむそて

かく程てきく商人物労の
うねーくと酒の評判
かくて土ち町よーぢもんとらうとごて。大吉の訳う
いうこちかたや権現のやしろあり
そこよく。一里だうのあとある。浦和の宿よつきこるよ

きろうものを積そ称しへ商人の
おりてくらーん和の宿のあきうひ
此宿くの白ぐみて。むかようまる。男
男。そて話ぐーそ人とうもを見合せて
移人うトいよ話て。そのくとそ
おめんどこへらくのごイヤ
主仏の程たがきるまてこうーとの宿くへ今うり引とーて。
ちことやよるうゆーこがてア。おめんおきに若で今うおあろう
ナント今夜いこーのところへ。まろうさこ移人うへハアそん

ろーおめ。ころぐ。此宿のさこやうぢ
(古代)
ーニア ひさーぢうぢよ。ゆふーろうよ廿人。ヤ 小生も
ろーや
をとまりでかんでろい。サアーとちーへ。
やきそばむさころ (古代)
ーさ。そそやう。 (古代)ーサアーおまゆ
ぢふーこやイぢうとでもまやーとら
ーとてぢおやどう。
ろーのいろぐまでとだうけよ。
おめへのことろ。ろつてするしーや廿。ノウ小八(小八)そふさ。
そーてあーこ。ゆつろろぐどうろ
(女おう)
うろのへをとそそてもろてろとふろろん
あーとをゆーひあぢ。ぜぢうらできろうて
(女おう)ヨヤーくおうへくでぜぢろ
まちとろ。きろこさんも五一ぬろへ
ろぐぢうげる。ざーきえうれゆくろうろ
かのゆて。ひさーくろぐくらで。ぬてとこ
あやのびやーこ。あぐこと。ちまりて。こ
どやせへ。まぐろよそのあとをそそぐく
さぐこぐんとうちまろ。おいて。(古代)
ちくとたろろへりできろろて。(古代)さそ
ゆーお。おへがろひろこあとろぐ。あの
ろぐやよめる。あんまめぐそはろ。(ちーある)
ひよろろ同があろこうのぐろーり。あんまふよびても

備前岡山
向陽舎

如紙雀
のーのー
ゆっくり
春の日丹

昌克
かつ也画

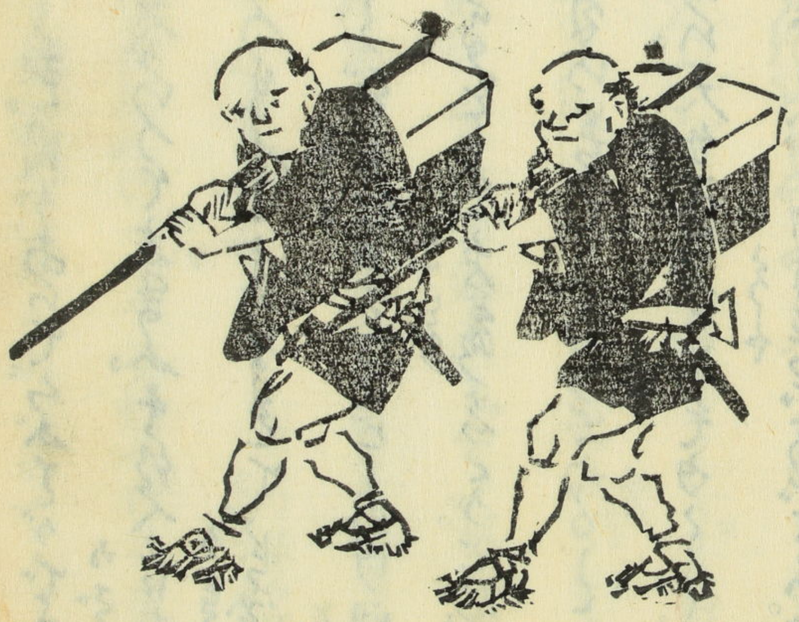
同の青折

雲る山義
雪色も
花色る

考案さま

かぶとの
幕を
爽の
お陣

播州高砂
瀧取早出



ろし。そうふ者ぢやまだ見うあいだらみてごうでござる
いゝ〳〵。身とまうしてござります。そふ名人者ぢやの
男がどこへきそうけうとうもふ人ようのまゝて。もふ人
秘蔵ぶいうことぢや。もし私のことのとしやけ親父へ。
そうろうのやうなこと。ふそうぢやとのごろ
きけべ。修行破で天狗さるのやうなといふ
こと。そもふ唐人きめんぢやいろ〳〵。イヤ
なやからうことぐうけおめ人ぐうぢやき者でめでたい。あゝ二

きことそうへ。るぜともまた死とゝてめろづうでもそろう
ヲイヤ所痛もめもし私人ぢ。あまそ者いろ〳〵。そりの
あることござ十三ぢやがあるこうへ。ぢやまちう
まだのもふんうヲアあけまだの助ふいぶやア私へ。やけ
ろ〳〵ぶあまろ〳〵アあ。ちんこへ。ぬまかとこうア私人。
そもまだの化と。あうへそうやまうトをやうのことを
ヲヤ〳〵ぢよ〳〵このぢ。まけぶうぢ私人のヲイヤうけこまげぶ
あるまぶご〳〵そもとゝ。まやこひみうへついてめうア。

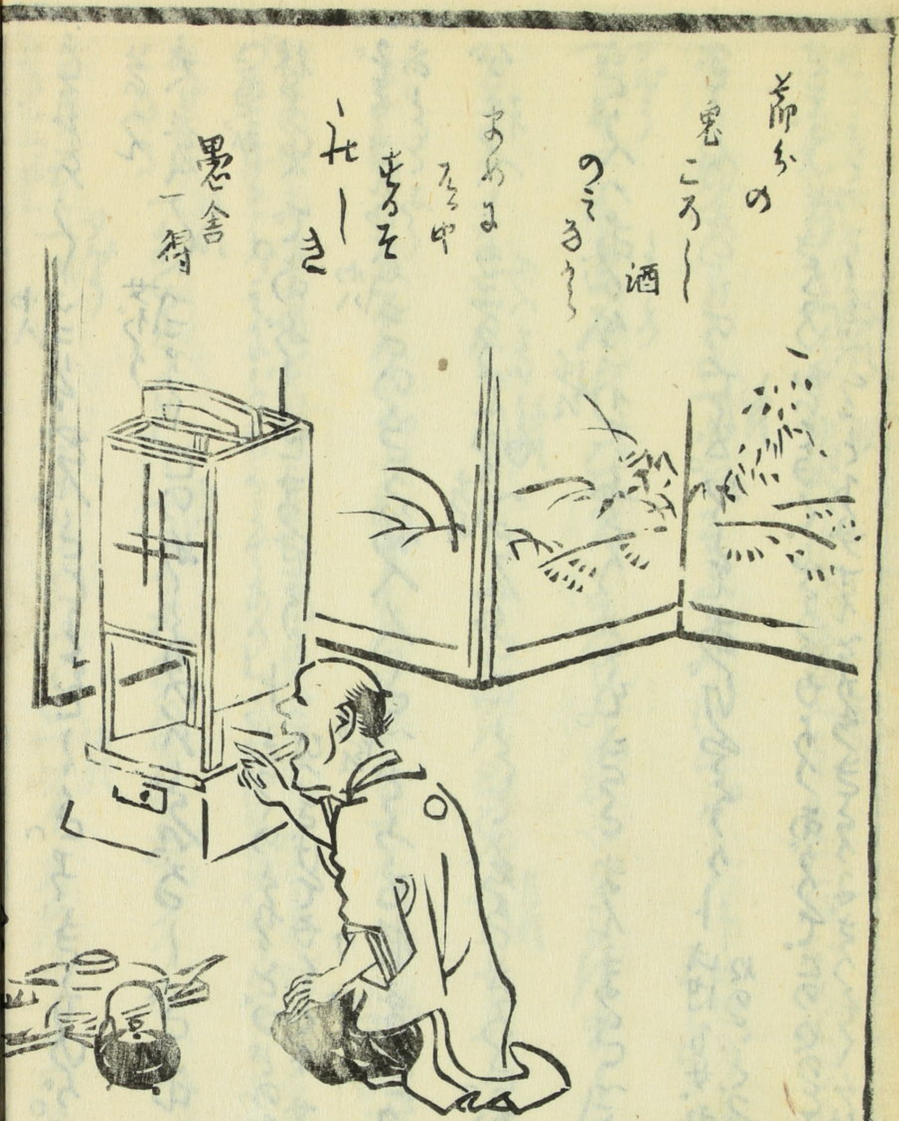
ぢんけのまごでも茶釜へうぎんの
もやぢの人。あるのまげのまげの
きつのぐ人。ぢるせがるぐいそぐ。小八うるさぐう〳〵。あと
でのこふ〳〵やせうぢんをもコリヤア。いろどぐるの。そんな
話さん。おめ人のうぐ人ぬるとこさ。ぢんそ〳〵いこ〳〵がある。よ
話そ
ぢりや耳よう〳〵。ぐよ〳〵とさけでヘイヤおめ人とよく。ひる
きめ〳〵。そ我本堂の旦那おぢえるのぐ。信列へ引て行うぐと。
おそめの晩。ぢ〳〵のところへ。さるうぐうこと。ぐ行渡

で。もとのそ又第かどの山と。貫きとこうまで。そのまを
きう出まつついて。人がちふらうこと。おめ人のぢをとらうと
中〳〵とんること。話そうがあること。さけ
くうのぐうまで。とんるまぬ。つぐ引る男ぐ。そ引
てうまで。つがごことをあるひてあるゆうこと。ひ〳〵引て
い〳〵ところ〳〵。おめ人うぐ人うると。考えまあう考〳〵。あ愛
の家ができうう〳〵。つぐやア多人久人引アそれぢ〳〵ことを
きつ出まつぐ。よろこぶことぶある。とあらうぶ七条の

大変どの。疱瘡のむしが。あとまくのがつて。けおつぢき
張
見てこけるやうにイヤそもそもかめだ
ぢうう。ざうの借金がありやうぢやうなしん
ときやが
理屈だ。どくうつうまいぢめうまいぢめうしおりう
とよそもの。例ようようりやうせん。おの大変さま。汚のさ
のある人で。此比あそこくも家をとうてるとしづく
下今までの店よりかうる家作はがせぢやつしだうで。
おりうくるいぞ。ふぞ汚でものんで。ちまとのめをでん。
くるをうしん。右衛門かづけてもかるかぬちと
ちらくそうけで。のうきりのぶ陽気でいうしん。そん
る人うるぷ。ぶでもあいてやうとしいうまとうしん。そ久衛を
かりるせ人ぢやうくもぢが。ぢうその。大変さまかぬる
人う称ぢやうしが。情合まう。別まう
やうちけん
高る偉人とるあやうおよび称人がそのうう。恰付
まち
店賃ひまづくもし。ぢうくるうくるうやう

ぢゃもしがく「イヤ地めへ」でござ
る「移人」ことこと「おこそ」おめへの
女房「コリヤア市退屋」でござりまし「ておめへ」
るさうませんか「ドレく」白じ
よさらばそろ〳〵ふとうもらきる女「ト」
いこのまゝきめとなぎまてゞ
づきとけるとぐちよのくそあ
おぢけ「おのこと〳〵」
とるる「コリヤ大さうを」
きさうてきをとぜ「コリヤ〳〵」ぞるさ
と「ツイ」ござりまして。

とゑ「コリヤ」ごんごとうをこゝきのがこゝ「コリヤ」
らのえ
大変〳〵「ニヤ〳〵」とのめ〳〵
ふきび
休やへ「で」おが〳〵せまさう
ぞうきんみそ「小八」
おとゝふ〳〵「さのきう移人」
が移人「トお」ひつさげてあくと「下女」
「サガ」
きづへ「あるう」「イヤ」ふうとも「ニヤ」
ふうのきうのでも。かゝそあ
せとゝふてきうふいてあく。ゆうて。とのゝこと。
きてすてのぞうきへくうと。七女ぞれ


茄子の
裏ころし
酒
つまみ
あぶら
なべ
やき
なし
墨舎
一有

うらの
かきを
かせし
旅人の
手をあのの
いしまき
をかく
伐木亭
一車

糸とろびやう巫女さがう
さけさるるとかきます

ひとりおぐうませ〳〵とるとろ
おうるひるさるる〳〵ひさ〳〵ぐうでちく〳〵おまとご〳〵うる
さうまのせートあいてあくてのきさうて〳〵サアく〳〵をでめるせ人〳〵ニアお
め人うく〳〵ドレおうんなるもうう
さうぐるを〳〵ごえはおめ人ぐごも。るぐ人うくると。今のお木
生をまてるんでもひとまうだのゆう。あうくとうみ
かのごうう。延喜さんおめ人。ナントいくせがうぐあるがさん

るく〳〵人延イヤまかあるうぐ。まぐうちぐ新人十のと〳〵ハテ
そるとも。るぐ人うくるとおえはよ出まる。まぐ〳〵その女と
いうかもうぐ姫で。おえ名やしくまさよ。ひさ〳〵くうとあること
うう。るる数もまうあるよかてもやうちの新ぐひ
ゆかぐふぐまうとのるいとろやをいまころるうぐん
るとこころでもいうう。やうう。ぐけおいぐ
うう。のかん追多ままてめまをぐ〳〵ハ共ほえで。
やひそうも。おえ姫よぐでまうし〳〵。由人もかうよ。ゆも

のぞくるいがごくごくおとこぶ
との称びそそもこは親のうちへ
どぎう
斗房のものがりのところごうう
まるれもやぎとうつづけやう
久イヤそうくおりうくさるごの
うちぶとそそうぶ碁仙よりお称さるがくとぶ。
その当うのう称そぶごとくそくる。
お後がきめくくまいるごやどるーのくせこう

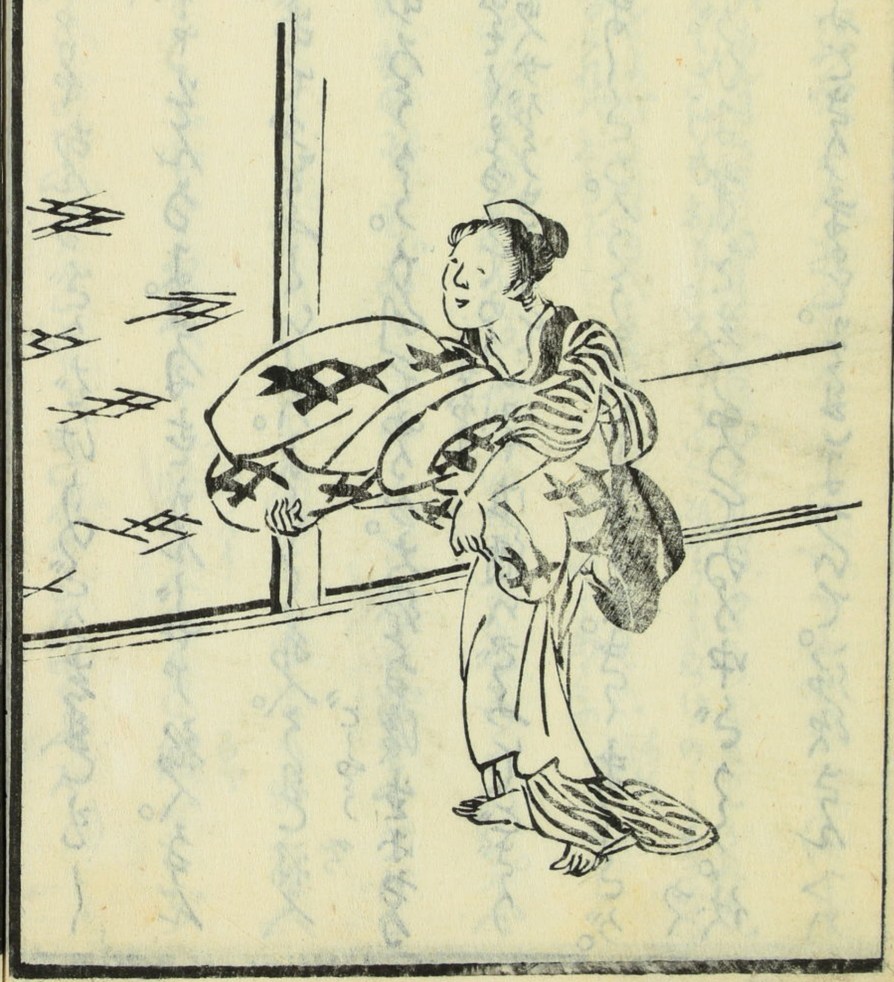
談やう多ーぶ。まめくもときくおやア。および称人
来うー。今までは大家よりあくことのぶごうぶ町方
のうち世学ぶもぶ。
おめ人ありもう イヤモ当ぶでいそーぐ
ごるるくー ぶまでで世人は生きぐんぐぶ
るくと。ごよさるかのぶ。さごめー ぶるとけうばア
ごぶもとくを称人そんるうまび。きまろくと
らよかのごと談ふ。まぶきくぐ。おめふかて

ら孫八う。ちょつとそこへよびるせんるまいやいるよ。
さうるとうみて来やせうコリヤ八ごびがきそれそちら
まる九とぜやアるう孫八トあるるのまげをろくばけまもまる九
うちへうちやくちやのろうおぞさのうへぶろうそうの日つ九まで。ゆび
ん。さ九のまげるうまるのまちとうもいで
ぜるこもぜよみお生るさうしまるこまいく。コリヤア大阪きぎ
さん。やつそみるまちそうぶろ孫ぜよとのひんさ五皿
とぜそのおむまんあげそんうのぶぜちくへぜよんで
うんるせんるコイヤまるハちは。むをめぶそのまろうの。

こまんさそうそうんるせん東京大嶋のきちのとぜきそうこまおむをさ陸ごりやアこんぶまちがひぶゃノこの子ぶぜまこ
ぐも歩人衆よ。つとめそんコまうくコまそれ物をつとめるさろこコイまろそれ物をこのうち。ソリヤア十二市物事。コリヤアそのうち。さごめてあるまんぜ。ここであろうコイヤそのこ
五物事のるやぐことをつとめるやうこコアおまんまこうとそこてぜるまうこのぐる。コリヤそんること。あろうと

おうめ「こへ、源次さん。おやうちのごろうまへ
あごそうけ。源次「ふんよさそうるて、ことの
うれいきふんとうさめて、さけもありしろう
かつてようごろうをよびうつ、源次「ナンート
むとあも、まうちるれば、おるだくうつ
つまう移人じゃア移人う。あんるおうめ
けよふとう。のちやぢも。あんまうお産人
「イヤそふいひうさるる。おめんごとう。必ずとも猪口
出さうとう。ととごやア移人うぶ。住うあうときまうごうう。
ぶ。

源次「ごうとういうる。アリヤあんるぶう。だけものごう。さるとも
移人うのを「イヤそんるよさるまをうんじやア移人う
でもおめんよ。おてごをふとうおめんよくしあんぷうと移人
さうのであろうう。りんてゆうが。大死る後生ふうる
でおろうト「そくるしてゆうて「移人せがうきうて「イヤ生酒いごみでごう
まと。おごうまうこうんうちのそうでき。まうこが。
うんでも。もごひはをと。さうめてゆる中ごう。伏
ぞう
ぞうくて。よみでごうまと。そうついて。源次さんへ



鳥羽
雨足

伊丹
酒樽

おきのどくでございますことでございますが
（まがー）
ごろくのとうふめのるいかのでございや
おとそうやもくごけうおもうもあけませ
をぐ。今あのまがとてへ出てうきがかうつことうて。
あんまうさーがうつあんぬうもとうらきうこ八
さんのところへうつきうらもこやアるみも。
浅次さんをきらうのじやアるうもごけう。
そこがうんきうでございますでどうもとうちでも

きのどくで浅次さんのまあそうことがいそうこ
るいとやまもとうう。なに、そんうこ
ごうがうちあけて。おさうしらこまもとうこ狸仁の
（さうぶん）
谷什よ。このことを出お浅中まもとが。ホント浅次さん。お
めんのおところのきんイヤモそうこ
（狸）
あやうかまぐそこ方でございますこ
（そまよ）
るふも。遠きんうう稲人うう。
小八
ごそ足びの。ソリヤ浅次さん。

そのうつおろさんそんやさ
出まやせうう。ごめんくださいまし
あうまやせう〳〵そもじさんへ
叱門まさうてうず。女ぼうを誘引
よびうるやくしてまくく
うろく〳〵おうろざんでひかず
いとのまづうのう〳〵。あ〳〵
うろひ。こんをんをなどトとろひかる
風がかうまい〳〵。あまのどう
らいよまい。そのうちのう。そ
らいまうまうまうこと。
らいまうまうこと。
えのうろ狂人やうう。あ〳〵
そもまさん出まうもう。よ
八さんへいやつけをうしいとうこと
るう〳〵。をるうしとうこと

たろさん「うう。そ〳〵ておらい〳〵ごとうもんだ。
いさくさん「なに旅人のさぎだア。そんなものうつよりそのうつよりきさま
ちとこいこい〳〵まちそうトいえまそ〳〵こりやうそうさらがうよ
ろこぶくこゝ
きち〳〵まちとのごでもらうそんとうちうん。
ふごのおちとうのとまことうちやア。残
百もあうとこ〳〵ことうちうちごきう。そうちんまうこのう〳〵
くも旅人うう。かなり旅人おらこうらも今。なめ人のうことおお
ごとこごで。おい〳〵うまのあとれ。おさうごがごアまと人ぜん

うう。そん旅人も損ごうこよ。ふこ〳〵まと人ぜんもおう〳〵ふ〳〵ト
はいきうて
きうて
はいきうて
きうて
ありまあまとこうまうせ。おうとこうまうせうト
そうこうこうこづけ。まぎぶとんをもちさうまうこうびう
ことをうてもくこそやうう旅とうびう
やきるて。まごうこうのおもくとうものごうぶん
ざ〳〵でも旅人の
うちごうこうまうぶト旅るごうこうこと。をこれ
うてのうこさかが〳〵。さあ死ようとうとは。ふうとうもう〳〵よ。
日さあてかごうんとありおおへかごうまごうくこうこと旅うう〳〵ごやう
おらでう人ぜんモシかのまそのあ〳〵

（左）
そのとこで大さんぎが来まして
イヤ（まろう）あのう（まろう）うちの馬士と
きけば。るうこめと。はあらごうこ
でごうまとがうちでそんうこ
ろうこそこでおめくよ。おそうこ
きうせこととうやとらうまとこ
ようふへさんのろうへとうこ
でがとうこも。（そこぞん）お供の半まる人
（左）
あがろうそこでも。ふさんまがとかのごう。
まこ。沼沢さんは去よふのちんのこ。をごうく
こあがちのをどこ。ごふ
ろうこのごうこ。そこまで馬うこあこ。いひあ
のせてうけをもーこととあこ
ごくこととこ。おめくごこ。おふこのきうのこ。きが
きこやでおぶこうこ。うらごいひます。（ぶんどころ）奉仏の
かけごうけてうーこ。あきまーこと。それも

去
ろ
ろの
よる
錢の
名の
ちしま
まるの
まるね
簸を
ふれしま

スルガ府中
若気速丸

あるものぐら。もるこめぐらあてメ人
ますせぬぐ。今うまぐ稼出
と。あやまこころうまうまぜ
ヲリヤ〳〵まこと小〳〵ヲットこ
大ねはあちこあこ〳〵の
大変まこうあまこぐまものを。るうこ
めが。ものてうこと〳〵ヤやまこ
あまこめうせん。まこぐ稼人あるりけるこ稼人女ホ。

まぢき出まこるのこころ。きこのまで。ひうこころれる
とうの。よこ〳〵の国家のうくぐらセントはまろ
稼人ぐやァ稼人〳〵ま
ぐこぐら。ぐひの稼人さいうえ〳〵トあうひぐまうこと
まること
馬士のる入まを
あ〳〵入まこまあ
そのまれそのまく。あろあさ。あさいでれがでらも
たるこ人穴おこめのあくあをぐさ
廿がろ。ろうくきのぐくぐつて。お
おきせさまぐふりびるも。せんろるくいこぬでのるそこく

ゆうして。その物とうちのでしょうが。今あり人がおうく。こちらくうそうるぐさまして。こいるまちがやくくもちろうぐのくあいうそうて

名乗（なのり）うる　強（つよ）い人（ひと）をよびおこるうまを

札（ふだ）のまを出（だ）して　名（な）高（たか）の　駅（うまや）

とのきゆくあてのづうやとくうるがあるか。あるうか。こちらうまくしてねうるむうまのかうのうまをまてうれさのあうく。

おいかりのかんそうぞかぶ（陰）ヨヤ生（う）まを清（きよ）さんうぞこちらく人

さまをそうけて

陰　ヤア清（きよ）ぞのう。今おくる人生（ひとう）ろ。コリヤめでたい。ござる

日（ひ）がまちうねてねうくまうる。今（こん）ど佐列（さんれつ）の山を。

入（はい）れしてあちうの人まを我（わが）まう出（だ）うようぜい人が

うう。ぞうぞきさまがう。まいゆうまを（お）

ござるぞう。生（う）まれうそ。まれてねうる。うんでも金（かね）まうけ

の益（えき）ぞうまくいれく（陰）そ浦和（うらわ）の方（かた）をかが

ぜできゆくうう。そのでゆうやまを（生）ヨれくうん

でも。きさまる者（もの）ろう。全体（ぜんたい）特（とく）よるふぐぞよろうん

ぞうの。ヨーへ生（う）ろう。（陰）ござうけ合（あい）ゆくいそぐう

ニア生（う）まさまる（陰）ちんでいうせん。ありの白（しろ）ろ

きさまるちぐ。ちう（陰）後（あと）ろうぐ（陰）生（う）まう

古代 此膝栗毛則十二編也全く満尾を
告ぐるやうなれども拾遺編貴賤
上下の部を
著すの旨を
事ゆゑ
ざる長物の
残とおそれて此編

書林

大阪心斎橋唐物町
河内屋太助
江戸人形町通家持町
同 自笑 雀屋金助
同 深川佐賀町
村田屋次郎兵衛
同 同所
伊藤祭兵衛

諸国噺之内 古今奇人傳 全二九著 全二冊 清譽おくことを著す

続編 雑司ヶ谷記行 同 著 全二冊 [illegible]

十返舎一九

25